

JTF JOURNAL

2016
09/10 #285

翻訳の未来を考える

巻頭特集

翻訳業界の団体学会



お客様のご要望に応えるため
更なるベストサービスを目指しています。

プロジェクトチームに 参加しませんか？

在宅・オンサイト
翻訳者募集中！

IT関連 半導体関連 化学分析 金融

医療・医薬・医療機器 マーケティング・ビジネス関連



Communication for
a global marketplace



株式会社 十印（とおいん）
〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目25番5号 オーク五反田ビル
TEL 03-5759-4371（採用担当窓口まで）<http://www.to-in.com>（「お問い合わせ」）



登録翻訳者の皆様に無料で使ってもらえます
最新の翻訳メモリ・用語集・作業進捗を共有できます

～まずは 30 日間無料でお試ください～
www.memsource.com/ja/pricing

日本語マニュアル・ブログ
blog.memsource.com/ja/

E-mail: japan@memsource.com TEL: 03-4360-5563

日本窓口：〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2 丁目 49-7 池袋パークビル 1 階

本社：Spalene 51, 110 00 Prague, Czech Republic (チェコ共和国プラハ)

Memsource



memoQ クラウドサーバーの無料トライアルをぜひ!

チームメンバーが増えていませんか?
翻訳時間が延びていませんか?
業務改善すべき?
サーバーソリューションを導入すべき?
まず費用対効果を考えないと?

まあ、あまり考えすぎないでください!
気持ちを楽にしてお試ください!

まずは memoQ クラウドサーバーを
一か月間無料で使ってみて、
気に入ればご継続ください。

トライアルはこちらから:
www.memoq.com/memoq-cloud-server

ご質問・ご相談はこちらから:
sales@kilgray.com



募集中!

営業、コーディネータ、
校正スタッフなど、多くの人材を
各拠点で募集しております!

言語 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
韓国語 等(その他言語も募集中)

分野 特許・工業・医薬・金融・ローカライゼーション

内容 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注
オペレーター 等

応募方法 下記ウェブサイトからご応募下さい

株式会社 翻訳センター JASDAQ
証券コード: 2483

大阪 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL: 06-6282-5010 E-Mail: info@honyakuctr.co.jp

東京 東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル8階
TEL: 03-6369-9965 E-Mail: freelance@honyakuctr.co.jp

名古屋 名古屋市中村区名駅3丁目16番4号 太陽生命名駅ビル5階
TEL: 052-571-2101 E-Mail: nagoya@honyakuctr.co.jp



医薬翻訳
Medical



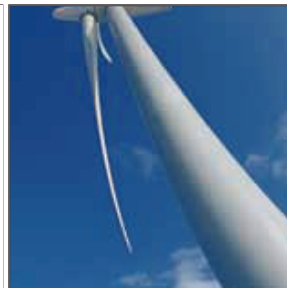
工業翻訳
Industry



Financial
金融翻訳



HONYAKU
CENTER
New Standards in Translation
株式会社 翻訳センター



Patent
特許翻訳



募集要項・会社概要等、詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://www.honyakuctr.com/>

産業翻訳の
新たなカタチ、
構築中...

6 翻訳業界カレンダー

巻頭特集：翻訳業界の団体学会

- 8 翻訳業界の団体学会 ● 河野 弘毅
- 9 JAT 日本翻訳者協会 ● ベン・トンプキンス(インタビュー)
- 10 JTA 日本翻訳協会 ● 湯浅 美代子(インタビュー)
- 11 JAITS 日本通訳翻訳学会 ● 水野 的(インタビュー)
- 12 AAMT アジア太平洋機械翻訳協会 ● 中岩 浩巳(インタビュー)
- 13 NIPTA 日本知的財産翻訳協会 ● 浜口 宗武(インタビュー)
- 14 JTF 日本翻訳連盟 ● 東 郁男(インタビュー)

連載記事

- 16 続・翻訳者のための作戦会議室 第3回 ● 高橋 聡
- 18 メディカル翻訳最前線
第3回 良い翻訳を作り上げるために必要なこと ● 小野 真帆
- 20 いまさらながらの・・・CATツール★超基本
第3回 課金率ってどんなもの? ● 加藤 じゅんこ
- 22 帽子屋の辞典十夜 第3回「Longmanを使い倒そう」● 高橋 聡
- 24 『何でも教えてキカク』 第4回 ISO 17100から見た世界の翻訳規格 ● 田嶋 奈々
- 26 翻訳品質のランチボックス 第3回 従来のエラーベース評価手法 ● 西野 竜太郎
- 28 翻訳者のためのWord再入門 第3回 文字を効率的に入力する! ● 新田 順也
- 30 機械翻訳の近未来 第3回 統計的機械翻訳 ● 本間 奨
- 32 翻訳と私 第2回 なぜ、「出版翻訳家」になりたかったのか ● 藤田 優里子
- 34 翻訳テクノロジーを学ぶ 第3回 ～翻訳メモリ編 その2～ ● 立見 みどり

36 翻訳業界インデックス



表紙撮影：世良武史

JTFJOURNAL

日本翻訳ジャーナル
2016年9月/10月号 #285
発行人 ● 東 郁男(会長)
編集人 ● 河野 弘毅



JAPAN TRANSLATION FEDERATION

一般社団法人 日本翻訳連盟
〒104-0031
東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F
TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604
info@jtf.jp http://www.jtf.jp/

無断転用禁止 ©2016 Japan Translation Federation

		イベント名	内容	講師	主催
9 2016	12	立教コミュニティ 翻訳通訳ウェブサイト 開設	立教大学異文化コミュニケーション学部・研究科の翻訳者・通訳者養成プログラムで学ぶ学生を中心とした翻訳・通訳の訓練生が学内外の実際のプロジェクトに取り組むサービラーニングのプログラム「立教コミュニティ翻訳通訳 (Rikkyo Community Language Service; RiCoLaS)」のウェブサイトが公開されました。		
	17	TAC東京セミナー	「フリーランス金融翻訳者としてお互いに頑張っていくために」 「舛添知事の辞任メッセージを訳す」	鈴木 立哉 フレッド・ウレマン	日本翻訳者協会 (JAT)
	24	JATISO委員会 / 通訳分科会 (JATINT) 共催講演	ISO 認証 ～通訳・翻訳 ISO の到来～	右田 ミーハンアンド リュウ	日本翻訳者協会 (JAT)
	25	SWET/JAT イベント	翻訳を教える	Susan Jones	日本翻訳者協会 (JAT)
	27	JTA セミナー	「中国 Web マーケティング戦略に特化した産業翻訳のコツ」セミナー 第6回 ファッション業界、芸能関係のマーケティング翻訳のコツ	董 菁 (トウ セイ)	日本翻訳協会 (JTA)
	29	JTA セミナー	A Native Speaker's Insights and Commentary on J-E Translation Seminar Thinking like a native speaker	John Spiri	日本翻訳協会 (JTA)
10	1	第9回 TRAC* 定例会	「WORDを徹底チューニング! 仕事ツールとして WORDを活用するコツ」	新田 順也	日本翻訳者協会 (JAT)
	13	JTF 翻訳セミナー	「TMS (翻訳管理システム) の導入と活用」	目次 由美子 河野 弘毅	日本翻訳連盟 (JTF)
	13	JTA セミナー	「英字新聞を徹底的に読み解く!」セミナー 第1回 英国のEU離脱の背景と追隨する動き	江國 真美	日本翻訳協会 (JTA)
	15	JTA 公認 出版翻訳能力検定試験	第12回ヤングアダルト・児童書翻訳能力検定試験 第11回エンターテインメント小説翻訳能力検定試験 第8回ロマンス小説翻訳能力検定試験		日本翻訳協会 (JTA)
	21	2016年度 日本翻訳家協会賞表彰式	第53回 日本翻訳文化賞「大貫 隆」 ハンス・ヨナス『グノーシスと古代末期の精神』全二巻 ぶねうま舎刊 第一部 神話論的グノーシス 第二部 神話論から神秘主義哲学へ 第52回 日本翻訳出版文化賞「紀伊國屋書店」 森川 俊夫他訳「トーマス・マン日記」全10巻		日本翻訳家協会 (JST)
	23	コミュニティ通訳スペシャ リスト養成講座 (全5回)	②司法通訳コース (定員20名)	内藤 稔他	公益財団法人大阪国際 交流センター
	23	SWET/JAT イベント	「A WALK IN JAPAN」: 翻訳の技、イラストの巧	Robert Blasiak Stuart Ayre	日本翻訳者協会 (JAT)
	30	NIPTA 主催 第23回知的財 産翻訳検定試験	【1級】以下の分野から選択/記述式 (1) 知財法務実務、(2) 電気・電子、(3) 機械、(4) 化学、(5) バイオテクノロジー 【2級】技術選択なし/記述式 【3級】技術選択なし/記述+選択式問題		日本知的財産翻訳協会 (NIPTA)
11	8	JTA セミナー	英文契約書の和訳セミナー 第2回 リーガル翻訳で気をつけるべき5 つのポイント	高田 道子	日本翻訳協会 (JTA)
	19	TAC東京セミナー	未定	リチャード・ウォーカー	日本翻訳者協会 (JAT)
	25	第4回 特許情報シンポジウム	未定	未定	アジア太平洋機械翻訳 協会 (AAMT) 日本特許情報機構 (Japio)
	29	第26回 JTF 翻訳祭	「考えよう、翻訳のこと ～ともに歩む翻訳の未来へ～」 開場/受付開始 ▶ 9:00 ～ 総合受付: 3階エレベーター前 トラック1～6 4階 鳳凰の間 5階 穂高の間 大雪の間 6階 阿蘇の間 ▶ 9:30～18:00 全24セッション プレゼン・製品説明コーナー【入場無料】 3階富士の間 ▶ 9:30～17:00 全6セッション 翻訳プラザ (展示会)【入場無料】 3階富士の間 ▶ 9:00～17:30 交流パーティー 3階富士の間 ▶ 18:30～20:30 (120分) 【定員】トラック1 150名、トラック2～6 各120名 プレゼン・製品説明コーナー 85名 翻訳プラザ (展示会) 250名 交流パーティー 400名		日本翻訳連盟 (JTF)
12	12	第3回アジア翻訳ワーク ショップ (WAT2016)	未定	未定	COLING2016 併設開催

注意: この記事に掲載した情報は各団体がウェブサイトなどで公開している情報をもとにJTFジャーナル編集部が編集執筆しています。内容には正確を期していますが、万一誤りや不適切な内容がございましたら日本翻訳連盟事務局までお知らせください。

JTF JOURNAL

「翻訳業界インデックス」

掲載募集のお知らせ (本誌 P36)

「翻訳業界インデックス」は、
テキストベースの広告スペースです。
御社の強みを「コトバ」でアピール。
業界でのステータスアップに
ご活用ください!

販売価格

1年6号分のご契約になります。

1年契約 6万円 (税別)
(1号あたり1万円)

販売区画は、限定**36社**のみです。
なくなり次第終了とさせていただきます。
お早めにお申込みください。

お申込み、ご不明な点は?

貴社名
ご担当者部署/役職名
ご担当者氏名
電話番号

を明記の上、下記まで
お問い合わせください!

E-mail: info@jtf.jp
(JTF 事務局宛)

サンプル見本

ロゴ: **ai** または **eps** ファイル
(高さ 10mm 以内で使用します)

必要なのは
ロゴデータとPR文のみ。
広告の制作費が不要なので
リーズナブルです。

PR文: 1行 21文字 × 12行以内

御社名
ウェブサイトURL
住所
電話、ファックス番号

一般社団法人

日本翻訳連盟
Japan Translation Federation

JTFは翻訳に関わる企業、団体、個人の会員からなる産業翻訳の業界団体です。

MISSION

- JTFは産業翻訳の業界団体として、常に時代の変化と潮流を読み、業界の健全な成長と発展に寄与します。
- JTFは会員間の連携を促しながら、信頼あるプロフェッショナルの育成と地位向上を目指します。
- JTFは急速に進むグローバル化の中で、会員のビジネスチャンスの拡大とJTFブランドの向上に努めます。

一般社団法人 日本翻訳連盟
<http://www.jtf.jp/>

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F
TEL. 03-6228-6607 FAX. 03-6228-6604

※デザイン、レイアウトの指示はできません。

巻頭特集

翻訳業界の団体学会

翻訳にかかわる立場としては以前から発注者（クライアント）、翻訳者、翻訳会社がよく知られていますが、最近はツールの開発者（技術者）、機械翻訳（自然言語処理）の研究者、翻訳学（Translation Studies）の研究者、大学における教育者など、かつてなく多様な立場の人々が翻訳にかかわる重要な役割を担うようになってきました。

翻訳通訳業界は売上で測れば規模が小さい産業ですが、それでも関係者すべてが顔を合わせる組織や機会は今のところ存在しません。関係者の間で利害が一致しない場面もありますし、既存の団体にはそれぞれ設立から現在にいたる歴史的経緯があり、そのなかではぐくまれてきた関係性もありますから、既存のすべての団体が単一の業界団体に集約されて関係者全員がそこに所属するという状況は現在もこれからも考えにくいと思います（これは翻訳通訳業界に限ったことではないかもしれませんが）。その一方で、翻訳通訳に期待される社会的役割の重要性や、機械翻訳に代表される技術革新の影響など、翻訳通訳業界にいるすべての人に共通するテーマや課題が存在することも確かだと思います。

単一の業界団体を作ることが現実的でないとしても、それぞれの業界団体がお互いの活動や現状を知り、そこからゆるやかな連携を今以上に深めていくことによって、業界に関係するすべての人に有益であるような交流のネットワークがひろがればよいと考えています。

この特集記事では、翻訳通訳業界の既存の団体学会のうちの6つの組織のトップの方にインタビューを行ない、各団体がどのような趣旨のもとで設立され、現在どのような状況にあり、未来にむけてどのようなビジョンをもって活動しているのかを紹介します。もちろん、今回の特集で紹介する団体や学会は既存の団体の一部にすぎず、紹介すべき団体はもっともっとたくさんありますが、この特集が業界の団体学会が交流するネットワークをひろげるささやかな一歩となればさいわいです。（河野）

JAT Japan Association of Translators 日本翻訳者協会

組織概要

設立：1985年

ホームページ：jat.org

連絡先：askjat@jat.org

会員数：個人800名以上（2015年4月現在）うち約4割が海外在住者

会費：年10,000円、2年分一括払い19,000円、入会金なし

個人の翻訳者または通訳者のみしか参加できる業界団体。特定非営利活動法人(NPO)。

- ・会員を個人に限定しているのは「実際に翻訳を行うのは、翻訳会社ではなく翻訳者個人であり、翻訳という職業の発展のためには、個人翻訳者の関心事や利益を重視すべき」(JATのウェブサイトより引用)との基本理念に基づく。ネイティブ翻訳者の比率が高い。
- ・英日・日英翻訳国際会議(IJET)を1990年以来、日本と英語圏の海外とで毎年交互に開催。IJETが海外で開催される年には国際翻訳セミナーPROJECTを東京・大阪・名古屋・京都で開催してきた。地域ごとの活動委員会も設けている。
- ・法律・製薬・自主出版・通訳・翻訳ツール・特許・エンターテインメントの各分野について分科会(SIG)を設けている。
- ・新人の発掘と奨励を意図した「新人翻訳者コンテスト」、ベテラン会員によるオンライン翻訳塾「e-塾」、エッセイ集「JATアンソロジー」の発行も行う。



Interview



Interviewee

ベン・トンプキンス

Ben Tompkins
理事長

●通訳翻訳者の コミュニティとしてのJAT

JATは31年前に孤独な存在になりがちな翻訳者が集まって話し合える場を提供したいという趣旨でスタートした。ネイティブ翻訳者が設立の中心となり、当初は東京のみで集まりが持たれていた。組織は2001年4月からNPO法人となっている。数年前は会員数が400名前後だったが、2014年に550名の参加を得て開催したIJET-25東京の成功の効果もあって現在の会員数は800名前後まで増えている。JATは大きなイベントとしてIJET(複数日にわたるイベント)とPROJECT(1日のイベント)という二つを運営している。IJETは海外で開催されるときは50名から100名、国内開催のときは200名

くらいが参加する。PROJECTはIJETがない年に開催しているが、運営するボランティアがでてこないときは開催を見送る場合もある。

●ボランティア活躍のカギは “Pay It Forward”の精神

(JATはいわゆる専従の事務局を持っていないにもかかわらず、ボランティアが協力して大きなプロジェクトを成功させてきた。その秘密は何か?) JATには以前から何かやろうとするボランティアを理事会が支援する文化がある。ボランティアだけでやればやりがいも大きいしみんなも協力するが、大変なところもでてくる。なるべく負担がかからないように、IJETについては運営上の反省点を「IJETハンドブック」にまとめて後進に引き継ぐ工夫をしている。個人的な意見としては、プロジェクトの規模がこれよりも大きくなったときは会議の支援をする会社と契約を結ぶほうがよいかもしれないとも思うこともあるが、先日開催されたIJET-27仙台もボランティアによる運営で見事に成功したので、いま外部委託が真剣に議論されているわけではない。

(いわゆる「フリーライダー」の問題をどう考えるか?) 手伝わない人を責めるよう

な厳しい態度はたぶん逆効果になるので「背中を見せる」心がけでやっている。こちらが一生懸命がんばってやりがいのあることを提供すれば、自分もやりたいという人は今までもでてきたしこれからも出てくると思う。自分も最初に翻訳者になって間もない頃、いろんな人にたくさん応援してもらった(ことが今の活動の背景にある)。「誰かに受けた恩を次の人に返す」という“Pay it forward”の精神がJATには生きていると思う。

●これからJATで実現したいこと

SIGが現在7つあるが、これをもっと増やしたい。また、地域ごとの活動委員会はこれまで国内にしかなかったが米国でもやりたいという人がでてきた。ボランティアについては、気軽に参加できる軽度のメニューを用意したい。また、これはまだアイデアのみだが、NPO活動としてベテランの翻訳者が学校や市や町内会の集まりにでかけてゆき翻訳について語る企画を考えている。

(取材 2016年7月20日、聞き手：河野弘毅)

JTA Japan Translation Association 日本翻訳協会

組織概要

設立：1986年

ホームページ：www.jta-net.or.jp

連絡先：ウェブサイトからメール

会員数：非公開（JTAメンバーズ会員）

会費：JTAメンバーズ会員 入会金 2千円、年会費 6千円（海外US \$70）

翻訳能力の検定試験と翻訳セミナー等を行う一般社団法人。設立30周年を迎える。

- ・ 翻訳に対する社会の認識を高めること及び翻訳に関する技術及び知識を増進することによって翻訳の水準を高めること並びに翻訳者を支援してその自立を促進することを通じて、世界の文化交流及び産業経済の発展に寄与することを目的とする。
- ・ 翻訳技能だけでなくプロジェクトマネージャーの技能検定を提供しているのが特徴。
- ・ 資格試験として、「翻訳専門職資格試験」、「翻訳プロジェクト・マネージャー資格試験」（基礎および上級）を実施。「翻訳専門職資格試験」では翻訳文法技能・翻訳IT技能・翻訳マネジメント技能・翻訳専門技能の4科目の試験を実施。
- ・ 翻訳能力検定試験として、出版（8分野）・ビジネス（5分野）・Plain Written English・中国語・フランス語・ドイツ語の試験を実施している。



Interview



Interviewee

湯浅 美代子
Yuasa Miyoko
代表理事

●はじめに

JTAの代表理事である湯浅さんは、1977年株式会社バベル【当時は日本翻訳家養成センター】を設立、社長に就任以来40年になる。1999年迄、25万人以上の方に翻訳家養成講座を提供した。翻訳家になりたい！という夢を実現したい！というのが湯浅さんの願いだ。1976年月刊「翻訳の世界」を創刊すると同時に「翻訳奨励賞」を設置、翻訳家への道を開いた。高校生から70代まで、幅広い層の応募があった。同誌で20年にわたり連載された別宮貞則さんの「欠陥翻訳時評」は当時の業界に大きな影響を与えた。

●日本翻訳協会（JTA）の設立

JTAの設立は1986年10月。当時の労働省認可の社団法人としてスタート。創立メンバー

の日本マンパワーの小野憲さん（故人）ホンヤク社の原田毅さん達の熱心なご尽力の賜である。JTAの目的は翻訳者の能力検定を行い、翻訳技能を公的に認定することで、翻訳力についてのコンセンサスを図り、同時に海外進出が進む産業界のビジネスコミュニケーションを担う人材を養成するということである。小野憲会長に次いで会長に就任、現在に至る。

●インターネット試験への移行

JTA会長に就任してからの20年余は、インターネットの登場などによる時代の変化に伴い、翻訳環境も激変した。JTAの翻訳検定試験は、当時、会場試験で、手間を要する試験運営だった。受験者にも相応の負担が掛かる。また、翻訳サービスがインターネットを活用する時代へと移行した中、今後の社会の進展を考え、2008年、インターネット試験に切り替えた。現在では、世界各地から受験者がいる。同時に、公益法人制度改革により、一般社団法人へと移行した。

●試験科目の専門化

インターネット試験へ移行したことで、試験科目を専門分野別に詳細化し、ビジネス実務の実態に素早く対応することが可能になった。翻訳者は産業界のニーズに適

応できなければ仕事を受けることができない。今後さらにビジネス分野の専門化が進むと予想される。ISOの動向を見れば、翻訳専門の学位を持ち、分野別の実績を証明することが翻訳者の仕事上で必須の条件となる。JTAは翻訳者が世界で活躍の場を広げることをサポートする。試験問題作成は相応の費用も掛かり、専門家の出題者をタイムリーに用意しなければならない。この点では米国の大学院である「バベル翻訳専門職大学院」の協力を得て、専門の教授陣に試験問題の作成評価をお願いしている。

●翻訳者の養成と並んでプロジェクトマネージャーの養成を重視

現在、プロジェクトマネージャー試験を入門と上級の二段階で実施中だが、今後の翻訳市場の動向は、専門性が高く高品質サービスで、且スピードを要求する顧客の要望に応えることが必要となる。そのためには翻訳会社のサービス提供の要であるプロジェクトマネージャーの養成を、翻訳者の養成と並ぶ第2の柱として重視し、この検定試験を充実させると共に、その視点で、ISOの標準化活動にも取り組んでいる。

（取材 2016年7月27日、聞き手：河野弘毅）

JAITS The Japan Association for Interpreting and Translation Studies

日本通訳翻訳学会

組織概要

設立：1990年（学会創立は2000年）

ホームページ：jaits.jp.org/home/

連絡先：jimukyoku@jaits-org.net

会員数：約500名（2016年7月）（設立時は60名、2012年1月に350名超）

会費：入会金なし、年会費 正会員1万円 学生会員3千円 賛助会員4万円

通訳と翻訳の理論・実践・教育に関する研究を促進する学術研究団体。

- ・学会の前身は1990年11月に発足した「通訳理論研究会」。有志による勉強会からスタートして2000年9月に学会へと組織変更。初代会長は近藤正臣氏。当初は「日本通訳学会」という名称であったが2008年9月に「日本通訳翻訳学会」へと名称を変更して翻訳学にも範囲を拡げた。
- ・通訳と翻訳の理論と実践および教育に関する科学的・多面的研究を促進するとともに、この分野の社会的理解の増進に寄与することを目的としている。
- ・年次大会は2016年で第17回を数える。2016年は9月10-11日の二日間にわたって同志社大学で開催された。前年より発表件数も増え、充実度を増している。
- ・学会誌は紙媒体の『通訳翻訳研究』の他、ウェブ版『通訳翻訳研究への招待』を発行している。



Interview



Interviewee

水野 的
Mizuno Akira
会長

●日本通訳翻訳学会の発足前史と現在の状況

「通訳理論研究会」には第2回から参加した。当時教えていた通訳学校で案内を受けたのがきっかけ。最初の参加者は十数名だった。発起人の一人である近藤正臣先生（経済学者にして通訳者）が80年代の終りに米国で通訳者の会議に参加して着想を得たと聞いている。（学会誌の投稿も増えているが？）学会として努力したというより周囲がそうになってきたと感じる。発足時に60名だった会員数が500名前後まで増えてきた今、理事を担ってくれる会員層のさらなる充実を期待している。

●実務と学術の架け橋として

この学会の特徴は会員に占める実務家の割合が高いこと。現在研究者になっている

人も多くは実務を経験している（水野さん自身もかつて通訳者だった）。そこは大事なところで、たとえば催しのときにはできる限り実務家の関心も満足させるような企画をたてたいと考えている。実務家が研究にかかわる動機は人それぞれだと思う。自分自身は理論志向だったことが動機。昔は大学で通訳翻訳研究者のポストがほとんどなかったが今はけっこう増えていて公募も年に数件ある（通訳が多く、翻訳はまだ少ない）。実務家が自分のキャリアを考えると、そのままフリーランスを続けるのかあるいは大学で教えるのかを選択する機会ができた。実務をやりながらの研究は時間的に厳しいが、実務から得られるフィードバックは大きい。

●大学における英語教育（語学教育）との関係

大学の英語教育（語学教育）の現場では実は通訳翻訳がかなり教えられている。大学レベルでどうやって語学を教えていくのかという「語学教育の方法」のひとつとして通訳翻訳をとらえる考え方が一定の支持を得ている。文科省の方針に準拠して日本語を使わない授業だけで学位を得られるコースが新設されることと一見すると矛盾するようにも見えるが興味深い動きとも言える。

●翻訳研究のアカデミーへの浸透が次の課題

通訳に関しては大学で実務を教えられる通訳者への需要があるため専任教員のポストが増えてきたが、翻訳に関してはまだ少ない。従来、翻訳にかかわる研究は文学研究の一分野である「比較文学」の範疇とみなされてきた。翻訳の実務にも関わる「翻訳学」Translation Studiesがどうアカデミーの中に足場を築いて浸透していくかが次の課題だろう。

●産業翻訳との接点

実務と接点がある研究がでてくることで実務家との関係も発展していければよいと思う。実務家の中から研究に取り組む人が増えてくることはもちろん望ましいが、学会は学問として翻訳に取り組むことが中心になるので（すべての実務家が学問としての翻訳学に取り組むことが目標なのではなく）実務家が翻訳学の研究を横から見ている、その中から実務に役立つものを使ってくれればとてもよいと思う。実務家からのコメントを歓迎している。

（取材 2016年7月26日、聞き手：河野弘毅）

AAMT Asia-Pacific Association for Machine Translation

アジア太平洋機械翻訳協会

組織概要

設立：1991年

ホームページ：www.aamt.info

連絡先：03-5951-3961

会員数：法人会員 22→25、個人会員 58→68 (2014年2月→2016年3月)

会費：入会金 法人1万円 個人1千円、年会費 法人5万円 個人5千円、学生1千円

機械翻訳(MT)サミットを運営する機械翻訳国際連盟(IAMT)の下部組織。

- ・1982年から四年間、日本はMTシステムの開発に取り組んだ。プロジェクトを率いた長尾真京大教授(当時)はその成果を公表して課題について議論する国際会議を箱根で開催したが、この会議が後にMTサミットとして定例化され、そのMTサミットでの議論からIAMTが産まれた。
- ・AAMTはIAMTを構成する三つの下部組織のひとつとしてヨーロッパ機械翻訳連盟(EAMT)および南北アメリカ機械翻訳連盟(AMTA)と並ぶ存在で、MTの開発者と利用者が交流して互いから学ぶ場を提供する。
- ・MTシステムの実用化の促進および実用化のための研究開発に貢献した個人またはグループを表彰する「AAMT長尾賞」を2006年から授与しており、2014年からは「学生奨励賞」が併設された。
- ・情報提供のために機関誌“AAMT Journal”を年3回発行している。



Interview

Interviewee



中岩 浩巳

Nakaiwa Hiromi
会長

●2017年9月に機械翻訳サミットを開催

AAMTは機械翻訳の技術に関する協会だと勘違いされる場合があるが、MT技術の開発者とMTシステムを利用して翻訳作業をする人たちの間のコミュニケーションを良くする場を作ることを目的としている。来年(2017年)9月18-22日にAAMTの主宰で機械翻訳サミット(MT Summit XVI)が名古屋大学で開催されるため、現在はその準備に取り組んでいる。MTサミットは機械翻訳関係者と翻訳業界関係者が一堂に会して交流と情報交換をはかるイベントであり、翻訳業界からもぜひ多くの方に参加していただきたい。これまで欧州・アメリカ・アジアの持ち回りで隔年に開催されてきたが、日本での開催は24年ぶり3回目となる。

●ベンダー主導からユーザーとベンダーの双方向の情報交換へ

従来はベンダーが開発したMTシステムを翻訳業界に使ってもらうという提供者側の視点が強かったが、ここ数年の統計翻訳技術の進歩によってMTを実務に利用する事業者が増えてきたこととユーザー側の技術理解が深まったことによって、利用者側の声をMTの研究者や開発者に届ける方向での情報発信が重要性を増している。今年は理事や委員会に翻訳業界からより多く参加が得られるように体制を見直しており、なかでもJTFとは翻訳祭やMTフェアの相互参加を通じてよい形での連携ができつつあると思う。

●アジア太平洋をカバーしていくために

組織名に「アジア太平洋」とあるにもかかわらずほとんどのメンバーが日本人だという現状を変えていくためのモデルとして、欧州のEAMTとアメリカのAMTAのやり方は参考になる。EAMTとAMTAはMTサミットの開催がない年にも各地域でカンファレンスを開催しており、それらのカンファレンスに参加した人には各団体の会員権が付与される。このシステムには各団体の経営を財務的に安定させる利点もある。

●近年のMTブームとAAMTの役割

企業に入って約30年ずっとMTにかかわってきた。谷あり山ありの30年だったが本当の意味でMTが使われだしたのはここ5年くらいだと思う(特に日英)。構造化されたデータから知識を得てそれを実際のサービスに展開することが明確に意識されているのがここ5年の変化であり、このエキサイティングな状況の中でMTを世の中にだすことに役立ちたいというのが自分自身のモチベーション。自らMTサミットを日本に承知するとき「2020年のオリンピック・パラリンピックを控えた今こそMTサミットを日本でやらないでどうする」と覚悟を決めた。

究極的には、MTのサービスを提供しようとかMTについて何か知りたいという人に、AAMTに聞いてみようとかAAMTの情報を使おうとかAAMTの会員に相談してみようと思ってもらえるAAMT、「機械翻訳といえばAAMT」と言われるようなAAMTにしていきたい。

(取材 2016年7月21日、聞き手：河野弘毅)

NIPTA Nippon Intellectual Property Translation Association 日本知的財産翻訳協会

組織概要

設立：2004年

ホームページ：www.nipta.org

連絡先：03-5909-1188

会員数：個人93、団体29、賛助会員13（2016年7月12日現在）

会費：入会金 個人1万円 団体3万円、年会費 個人1万円 団体3万円

日本で唯一の知的財産翻訳能力認定専門機関。特定非営利活動法人(NPO)。

- ・特許明細書等の知的財産に関する翻訳能力を客観的に測るための「知的財産翻訳検定試験」を実施。特許庁ならびに日本弁理士会などの協賛を得て、現在は「和文英訳試験」と「英文和訳試験」を各1回、毎年春と秋に実施、2016年春で22回を数える。
- ・特許翻訳者育成のためのNIPTAセミナーを開催。15時間前後の講座を2ヶ月ほどの期間のあいだに受講する形式が多い。
- ・社会的要請の高まる日本語と中国語の間の知財翻訳者育成事業には継続して尽力。中国において日中知財翻訳能力の向上を図るための講習会等も開催している。
- ・機関誌として『知的財産翻訳ジャーナル』を毎月発行し、2016年6月号で通算第132号を数える。弁理士や実務家など各分野に精通した筆者をそろえて特許翻訳に的を絞った連載記事が充実。



Interview



Interviewee

浜口 宗武

Hamaguchi Munetake
常務理事・事務局長

と人材の育成がNIPTAの事業の柱である。特許業界では人を育てる活動を特許事務所や翻訳会社ごとにこじんまりと行うかたわらで各事業者がお互いの競争に労力を費やす現実があり、検定制度を通じて事業者の個別の利害を超えた視点から国家的課題である人材育成に取り組むことができればよいと考えた。呉越同舟の喩えもあるが船がなければ海は渡れない、その船をみんなで作るという理想がある。

● NIPTA 創設にたずさわった

浜口常務理事が語る設立の経緯

2000年前後に特許庁OBを中心とする勉強会に参加していたが、そこでは特許翻訳者の力量が実案件を頼んでみるまでわからないことが問題だといわれており、特許翻訳の品質を担保する観点から特許翻訳者の検定制度の必要性が議論されていた。当時、会社の事業として特許翻訳者の地位向上を目指す「特許翻訳者の会」を運営していた流れもあって、これは知財翻訳にたずさわる自分がやるべき仕事だとの認識があり、特許翻訳の検定を行う機関の設立にむけて関係各方面に働きかけを行い2004年に実現した。

すなわち、知財翻訳における検定の実施

● 特許翻訳の将来について

いまや特許大国となった中国では国際的に通用する人材の育成に積極的に取り組んでおり、翻訳通訳の学位(MTI)を取得できる大学院が整備されるのと並んで、理工大学の中に日本語学科があったり外国語大学の中にコンピュータ学科があったりするのと較べて、日本は遅れている。中国と韓国では弁理士試験に外国語が含まれているのに日本では含まれていない現状を変えるべく弁理士法改正の動きがでたこともあったがまだ実現していない。海外と競争していくための施策として弁理士にも語学能力が必要で、NIPTAの事業は国家の対応の遅れを業界が補う意味がある。「語学はインフラ」が私の持論。

● NIPTA が実施する 「知的財産翻訳検定試験」について

特許翻訳のプロを見極めるための試験とするために問題の難易度は高い。特許翻訳では翻訳者がそれぞれ専門分野に分かれるのが一般的なので、1級試験では知財財務実務、電気・電子、機械、化学、バイオテクノロジーの5分野に分けて試験を行い、評価の客観性を担保するために各分野二名の試験委員(弁理士またはプロの特許翻訳者)が採点し、二名の意見が別れた場合は他分野の試験委員の意見を求める仕組みを作っている。透明性を高めるために一級合格者の答案をウェブサイトで公開しており、1級合格の候補者には直接面会して本人確認を実施し、今後の制度改善のための意見もそこで聞いている。教育的見地から1級と2級の不合格者には全員にコメントを返すとともに、その後の学習の指針にしてもらうためどのレベルで不合格になったのかをA,B,C,Dの四段階で評価して通知している。

知財翻訳の裾野を拓げていくためにも、もっと多くの人にこの試験を受けて欲しいと思う。

(取材 2016年7月12日、聞き手：河野弘毅)

JTF Japan Translation Federation

日本翻訳連盟

組織概要

設立：1981年（1990年に法人化）

ホームページ：www.jtf.jp

連絡先：03-6228-6607

会員数：法人会員195社、個人会員319名（2016年8月30日現在）

会費：入会金 法人2万円 個人1万円、年会費 法人5万円 個人2万円

翻訳に関わる企業、団体、個人の会員から構成される業界団体。一般社団法人。

- ・1981年に任意団体として創立され、1990年に通産省（当時）の許可を得て社団法人となる。公益法人制度改革にともない2012年に一般社団法人に組織変更。
- ・通訳翻訳者の個人会員だけでなく翻訳会社が加盟する業界団体としては国内において代表的な存在。
- ・産業翻訳者の技能計測を目的とする「JTFほんやく検定」の実施と翻訳業界における国内最大規模のイベントである「JTF翻訳祭」の企画運営を行うのに加えて、翻訳業に関連する専門性の高い各種セミナーを東京と大阪で合わせて年間十回程度開催する。
- ・情報提供事業として業界調査アンケートを過去4回、2004年・2005年・2008年2013年に行うとともに、情報誌としてJTFジャーナルを年6回発行している。
- ・標準化事業としてISOの通訳翻訳標準の制定活動に参加し、スタイルガイドの開発にも取り組む。



Interview

Interviewee



東 郁男

Higashi Ikuo
会長

●JTFの現況と課題

事業活動は以前より活発化している。特にJTF翻訳祭は20周年を契機に他団体の協力も得て順調に発展してきており、JTFジャーナル等での情報提供もできつつあるが、会員数は一時減っていたときから戻しつつも500前後で停滞している。会員へのメリットの提供がまだまだできていないと感じており、その改善が今後の課題である。

●組織についての見解

翻訳会社だけの業界団体になるほうがよいという意見や、法人化している個人翻訳者も多いので法人と個人を区別する意味がないという意見など、いろいろな意見があることは承知しているが、個人と法人でJTF

の組織を分けることは現時点では考えていない。それよりも翻訳を発注するクライアント企業の参加がもっとあればよいと思う。海外ではGALAのように翻訳会社とクライアント企業がそろって参加している業界団体もあり、JTFも設立当初からクライアント企業に門戸を開いてきたが、なかなか入ってもらえない。発注部門の方々に翻訳業界の情報を入手したい気持ちがあっても、その部門が所属する会社全体として会費を払ってJTFの会員になることに結びつかないのが現状。

●ISOの翻訳者資格要件とほんやく検定

ほんやく検定の強化を質と量の両面で考えるとときがきている。ISO17100で翻訳者に対する資格要件が定められたことは検定試験全体のしくみを運営体制まで含めて再考する好機だと思う。ISOの翻訳者資格要件の選択肢のひとつである「翻訳の学位」を授与できる高等教育機関が日本ではまだ少なく、今回のISOでは翻訳者資格要件として見送られた「公的機関による翻訳者の資格認定」の採用を欧米が期待している状況を見ると、世界的流れとして日本でも公的機関による翻訳者の資格認定制度を早急に整備する

ことが求められていると認識しており、JTFとしては日本規格協会（JSA）の協力も得て制度の整備に積極的に取り組んでいきたい。

●これからJTFがめざす方向性

クライアントも含めてより多くの翻訳事業者の方に会員になっていただけるような業界団体へと発展していきたい。各翻訳会社が数千人規模の翻訳者を登録しており、全体では2万人から3万人の個人翻訳者がいると想定されるこの業界において個人翻訳者の会員数が約300人というのは少ないので、より多くの翻訳者に加盟していただき技能向上と交流の場を提供できるようになっていければよい。

個人的には翻訳業界の処理能力がまだまだ低いと考えている。処理能力を上げてクライアントがもっと発注しやすくなる品質や単価で翻訳サービスを提供できれば、眠っている翻訳需要が顕在化する。そのための「環境づくり」がJTFの役割であり、機械翻訳や各種の支援ツールは、その推進自体が目的ではなく、翻訳業界が処理能力を上げてお客様のニーズによりよく応えるための手段として活用すべきものとする。

（取材 2016年7月14日、聞き手：河野弘毅）



私は 本気で極めたい

実務に即した授業

充実の講師陣

時代に生き残る専門力を身につけた翻訳者に



アンセクレツォで磨ける力

安全性情報とはどんなものであるか、症例とは、CIOMSとは、といったことに焦点を置き、医薬品の安全性情報関連業務に関わる概要を理解することを目標としています。

Basic総合クラス、CIOMS作成などをピンポイントで学べるBasic分割クラス、現在の力を専門的に深めていくExpertコース、また法人向けとして「安全性業務担当者としての必要な力」をつける研修プランもご提案させていただきます。

医学翻訳を学びたい方、研修のお問い合わせは

製薬企業様向けの語学研修・安全性研修も行っております。

アンセクレツォ



医学翻訳教室 アンセクレツォ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-21-2 京橋第九長岡ビル 4F
株式会社ウィズウィグ内
TEL : 03-5566-7757
<http://ansekureco.wysiwyg.co.jp/>



ウィズウィグでご提供できるサービス（安全性情報管理業務）

ウィズウィグでは製薬企業様、医療機器企業様の安全性情報管理業務に係るコストや業務量変動によるリスクを低減し、コア業務に専念していただけるよう、安全性情報管理業務の支援を長年させて頂いております。

ご要望に沿った業務内容、体制をご提案し、総括的もしくは部分的に安全性情報管理業務をサポートいたします。

翻訳者のご応募、業務のお問い合わせは

ウィズウィグ



株式会社 ウィズウィグ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-21-2 京橋第九長岡ビル 6F
TEL : 03-5566-1669
<http://www.wysiwyg.co.jp/>

続・翻訳者のための 作戦会議室

第3回

高橋 聡

IT・技術翻訳者、JTF理事

前回で報告したように、翻訳フォーラムでは5月29日に「シンポジウム&大オフ」を開催した。今回のシンポジウムと、その2日前に刊行された『翻訳のレッスン』は、言ってみれば翻訳フォーラムがここ数年間で展開してきた活動の総決算だった。

今回につらなる2012年のシンポジウムをきっかけに、この連載の元となった「翻訳者のための作戦会議室」を3年間連載したこと、2014年からは継続的な研鑽の場として「めだかの学校」という勉強会を年6回開催していること、そして新たな試みとして今年2016年からは「レッスン・シリーズ」と題する単発イベント（セミナー、ワークショップ）も開催が決まったことは、第1回と第2回でお伝えしたとおりである。

そして、6月26日には「レッスン・シリーズ」の第1弾「辞書とコーパス1日マスター」、7月31日には同第2弾「テンスとアスペクト1000本ノックワークショップ」を実施し、7月30日には第3期「めだかの学校」がスタートした。シンポジウムからわずか2か月の間に矢継ぎ早に続いた翻訳フォーラムの活動を、それぞれ簡単にご紹介する。

関心の高い 「レッスン・シリーズ」

「レッスン・シリーズ」は、毎回の定員を25名に設定したが、どちらも満員で開催のはこびとなった。特に第2回「テンスとアスペクト」は、シンポジウムでその概念に触れた方々がたいへん高い関心を持ってくださり、シンポジウムと同様に短時間で定員が埋まるという状況だった。

第1回「辞書とコーパス1日マスター」は、昨年からのメンバーの深井裕美子（以下、「深井」と）と高橋聡（以下、「高橋（あ）」）がいろいろな場で続けている辞書関連セミナーの総まとめ的な内容。前半では、深井が辞書とコーパスの基本を説明し、後半では高橋（あ）が事前課題をもとに、辞書の「読み方」を実践的に解説した。ここでは、後半の課題に使った例をひとつだけ紹介する。

Leadership is all about getting your team to co-operate.

このall aboutというのは、わりとよく見かける成句なので、意味はだいたいお分かりになることと思うが、さて、この成句を辞書ではどうやって調べればいいのか。実際に調べてみてほしい。お手元のいろいろな（電子形態の）辞書では、どの項に、どんな説明で載っているだろう。こういう例を積み重ねていくと、手持ちの辞書の効率的な使い方が身についていくはずだ。

第1回では、翻訳学習中の方も何割かいらっしまったが、第2回「テンスとアスペクト1000本ノックワークショップ」は、参加者のほとんどが現役翻訳者だった。講師は高橋さきの（以下、「高橋（さ）」）だが、深井がときどき質問をさみつつ全体を進行していくという形をとった。

まず、高橋（さ）の冒頭の言葉が大切だ。「単一言語のなかでなら当たり前前にできていることが、英日・日英など二言語間を行き来するようになると、とたんにできなくなるものだ。テンスとアスペクトというのも、聞けば当たり前に思えるような話のはず。だが、それを翻訳という実践の場できちんと活かせるかどうかは、また別の問題であり、1000本ノックのような反復練習が必要だ」と。これは、シンポジウムや『翻訳のレッスン』の中で繰り返し説かれていたことでもあ

る。文法用語を交えた概念説明はやや難しくなるが、実際に例文を分類していくうちに、アスペクトということ肌でつかみとれたと実感できたのではないだろうか。

つまり、レッスン・シリーズ各回の内容は、シンポジウムでその一部を紹介した翻訳上のいろいろなポイントや概念を、改めてじっくり実践してもらうための場ということだ。そして、そのエッセンスはほとんど『翻訳のレッスン』に凝縮されている。レッスン・シリーズを受講なさったら、シンポジウムの内容を思い出していただき、さらには『翻訳のレッスン』で該当する章を確認していただければ、理解がさらに深くなるだろう。今後も、「アウトライン・リーディング集中講座（仮）」、「語彙カード分類ワークショップ（仮）」、「英文読解力強化セミナー（仮）」が予定されている。

文芸作品も扱う 「めだかの学校」

レッスン・シリーズで扱っているトピックは、第1回の「辞書とコーパス」を除いて、過去2年間に「めだかの学校」で取り上げてきた内容である。つまり、レッスン・シリーズは通年の勉強会である「めだかの学校」のトピック別スピノフだとも言える。そして、スピノフしてきていない内容が、めだかの核ともなっている課題訳文の徹底検討会だ。

いろいろな翻訳勉強会もだいたい同じ形式が多いと思うが、全員で課題文の読み方・訳し方を微に入り細に入り検討し、提出された訳文のいいところ悪いところを指摘しあう。翻訳フォーラムでも、「めだかの学校」として通年化する以前からこの形式の勉強会は不定期に行っていた。どんな文章を取り上げるかということ、ふだん私たちが仕事で扱っているような実務翻訳の内容は、むしろ少ない。

『武器よさらば』の冒頭（めだか以前）
『赤毛のアン』冒頭
「Nature」の記事
「The New York Review of Books」の記事
『小公子』の一節

など、フィクションもノンフィクションも含め、むしろふだんはあまり触れない文章のほうが多い。言うまでもなく「文章の種類やジャンルにかかわらず、翻訳の基本はすべて共通」というのが、翻訳フォーラムの一貫したスタンスだからである。

上にあげたような古典の文芸作品を取り上げる場合には、自分たちの訳文だけでなく、世の中に出回っている既訳もできるだけたくさん集めて、それぞれの長所を確かめるといことも行っている。たとえば、『赤毛のアン』といえば村岡花子訳が定番だが、曾野綾子訳、岸田衿子訳など、さらには村岡花子訳でも複数の版があり、10種類以上を集めた。

『小公子』になると、最も古い訳文として若松賤子版（1890～92年）も登場する。こうなってくると、文体もさることながら、カギカッコの有無さえ今とはルールが違っていて、明治期の文人が翻訳文を通じて「いかにして日本語を作ってきたか」というテーマにまで足を踏み入れることになる。また、主人公の着ている服の色が、「青」と書かれている場合と「黒」と書かれている場合があり、実はその辺が当時の服飾の流行にまで関係していたらしいという文化的な考察にまで踏み込むこともある。

アガサ・クリスティの短編を扱ったときには、20世紀初頭ころのタイプライターというのがどんな職業だったのかという考察だけかなりの時間を費やすこともあった。『武器よさらば』の冒頭では、登場する自動車が実際にはどんな型だったのか、画像検索でかなり具体的な車種まで絞り込むといった作業にまで及んだ。

もちろん、ふだんの仕事でそこまで調べものに時間をかけられることは少ない。が、仕事に結び付かないように見えるこうした討論を通じて、自分たちの総合的な翻訳力がどれだけ伸びているか、参加したメンバーは全員が実感している。そして、実はテンスとアスペクトとか、アウトラインとか、レッスン・シリーズとしてスピノフしたテーマはいずれも、そういう課題文検討の一環として生じた内容なのである。

「めだかの学校」は通年なので今年はスタートしてしまっただが、レッスン・シリーズの開催予定などについては、翻訳フォーラムの情報サイト (<http://fhonyaku.jp/>) をご覧いただきたい。

Writer Profile

高橋 聡

Takahashi Akira



CG以前の特撮と帽子をこよなく愛する実務翻訳者。翻訳学校講師。学習塾講師と雑多翻訳の二足のわらじ生活を約10年、ローカライズ系翻訳会社の社内翻訳者生活を約8年経たのち、2007年にフリーランスに。現在はIT・テクニカル文書全般の翻訳を手がけつつ、翻訳学校や各種SNSの翻訳者コミュニティに出没。最近では、翻訳者が使う辞書環境の研究が個人的なテーマになっている。

ブログ「禿頭帽子屋の独語妄言」

<http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/>

メディカル翻訳 最前線

第3回 良い翻訳を作り上げるために 必要なこと

小野 眞帆

株式会社アスカコーポレーション
営業部 QC マネージャー

良い翻訳とは？

日常生活において私たちはいろいろなサービスを受けていますが、「あの店良いな!」と思うポイントはさまざまです。「注文したものが早く出てくる」ことかもしれませんし、「とにかく安い」ことかもしれません。あるいは、「店の雰囲気落ち着いている」「店員さんの対応が丁寧」をあげる方もいらっしゃるかと思います。

翻訳も同じで、「納品までの期日が短い」ことが高い評価につながることもあれば、「他と比べて値段が安い」「訳文にエラーがない」ことがお客様の最優先事項となることもあります。今回はその中から、訳文のエラーを最小限にするために意識しておきたいことをいくつかピックアップしてお伝えいたします。

専門用語の調べ方

メディカル翻訳では辞書に載っていないような単語によく出くわします。案件依頼時にお客様から参考資料をもらえれば良いのですが、そういった資料をいただけな

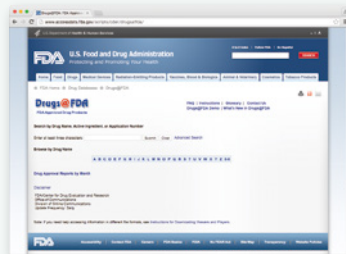
いことも多々あります。その際には、学会が監修している用語集や公のガイドラインを参照するようにします。これらの文書では臨床現場のドクターや、お客様である製薬会社の方々が日々目にされている用語が使われていますから、信頼度は非常に高いです。たまた個人のブログなどから用語を引用されている翻訳を見かけますが、その訳語を裏付ける根拠としては信頼度が低いので、注意が必要です。

文書内に出てくる薬剤名について調べることもとても重要です。医薬品は承認済みであれば添付文書*が出ているはず。添付文書は、薬事法に基づいて作成される公的に認められた文書ですので、この中に書かれている薬剤の特徴をしっかりと念頭において、翻訳してください。添付文書中の用語を用いて翻訳することは、お客様が普段見慣れている用語を使うこととなります。

上記の資料を調べても訳語を特定できない場合もあります。先端的な内容であるために、まだ訳語が定着していないこともあるからです。そのようなときは、原文のま

まお客様向けの申し送り事項としてもかまいません。専門家にとっては、無理に訳出するより、原文のままのほうがわかりやすいことも多々あります。

*日本国内承認済みの医薬品に関する情報は、http://www.info.pmda.go.jp/psearch/html/menu_tenpu_base.html、FDA承認済みの情報は、<http://www.accessdata.fda.gov/scripts/cder/drugsatfda/> をそれぞれ確認してください(下図はトップページです)。



Punctuationの使い方

日本語文中で何気なくコロンの(:)やセミコロン(;)を使いますが、英文中で使われる文を区切る記号(punctuation)には、重要な使い分けがあるのをご存じですか？

コンマ(,), セミコロン(;), コロン(:)。これらの punctuation は、区切りの力が弱い順に並んでおり、役割は下記の通りです。

(1) コンマ

3つ以上の同種類の語句や項目を並べる場合の区切りとして用いる、挿入句の前後に用いる

(2) セミコロン

関係のある2つの独立した節を分離する際の接続詞として用いる、複数の項目を列挙する際に用いる

(3) コロン

2つの主節を分離する際に用いる、引用や列挙を導く

以下の文はコンマ、セミコロン、コロンをうまく使い分けた事例です（数値は架空のものです）。とてもわかりやすいですね。

Laboratory tests showed the following values: Hb, 11.9 g/dL; erythrocyte sedimentation, 18 mm/h; and creatinine, 1.0 mg/dL.

また例えば、日本語で（年齢範囲：35歳～80歳）となっていると、英語でもついそのまま (range: 35-80 years) とする方が多いですが、ここでは意味のまとまりが断ち切られないように (range, 35-80 years) と、コンマを使うべきです。原文に引きずられることなく、ターゲットの言語に適した訳出をしなければなりません。

以下はお客様から指摘された事例です。皆さん翻訳してみてください。

<原文>

S状結腸癌：CT上は著変なし。

原文通りに訳すと、

Sigmoid colon cancer: CT images showed no marked changes.

として何ら問題なさそうです。しかし本来のコロンの意味を考えると、ここでコロンの使うのはやはりおかしいのです。修正後の訳文は

Sigmoid colon cancer showed no marked changes on CT images.

となりました。お客様からは『原文にこう書いてあるから』という理由で英語の文法やルールを無視して、日本語の書き方をそのまま転記するのはやめてください。」と厳しいコメントをいただきました。ご指摘の通りだと反省しました。Punctuationの使い方についてはAMA Manual of Styleにも詳しく記載がありますので、ぜひご確認ください。

翻訳支援 (CAT) ツールを使った翻訳でも落とし穴

最近ではIT分野だけでなくメディカル分野でもCATツールを使用した翻訳をお客様から要求されることが多くなりました。CATツールはご存じの通り、翻訳メモリ (TM) を使うことによって翻訳文や用語を統一できる (はずの) 便利なツールですが、こんな落とし穴があります。

<原文>

群間で有意な差はみられなかった。

<訳文>

There were no significant differences between the two groups.

上記の訳文は誤訳ではないですし、TMに登録されていて何の問題もないのですが、同じ日本語でも異なる文脈では、例えば差を比較する対象が2群ではなく3群以上の場合、このままでは大きな間違いとなります。正しくは、

There were no significant differences among these groups.

などとし、betweenではなくamongを用います。この間違いについては納品前に気づいて修正することができたのですが、このタイプの誤りは他にもあるので、お客様承認済みのTMであったとしても使用時には細心の注意が必要です。

最後に

エラーを最小限にするために意識すべきことをいろいろ書いてきましたが、最後に、翻訳の作業と同じくらい重要なセルフチェックについてお話します。これは、納品前に、原文と翻訳文を照らし合わせ、下記項目について自分でチェックする工程です。

- ・誤字／脱字／スペルミス／数字ミス／誤変換はないか
- ・薬剤名／会社名などの固有名詞を調べたか
- ・訳抜け／誤訳はないか
- ・参考資料／スタイルガイドを確認したか

やりっぱなしではなく、一晩寝て頭をスッキリとさせた状態で、もう一度翻訳文だけで読みかえてみてください。昨夜は気づかなかったちょっとしたエラーを見つめられるかもしれません。

Writer Profile

小野 真帆
Ono Maho

2004年株式会社アスカコーポレーションに入社後、チェッカー、プロジェクトマネージャーを経て、現在は品質管理マネージャーとして勤務。主に治験関連文書翻訳のプロジェクトで統括的管理や新人チェッカーへの指導などを行う。





いまさらながらの・・・

CATツール★超基本

加藤 じゅんこ

Memsource Marketing Manager

第3回 課金率ってどんなもの？

前は翻訳メモリのお話をさせて頂きました。そのなかで、翻訳メモリを使った原稿の解析と一致率についてもふれました。今回はそこからもう一歩進んで、「課金率」のことをお伝えしたいと思います。

翻訳メモリを使って翻訳を行うと、そうでない場合に比べ、効率よく作業を進めることができます。効率化された分を翻訳料金に反映させるときに使われるのが「課金率」です。課金率を使って翻訳料金を計算することで、翻訳メモリを使って効率化された分を実際の翻

訳料金に反映させることができます。

「課金率」を使った翻訳の計算方法

たとえば、ある日本語の原稿を解析したところ、次のような解析結果がでてきました。翻訳メモリとの一致も多く見られます。

1. 解析結果例（図1）

この解析結果を下記の課金率を使って、計算をします。

2. 課金率例

繰り返し	5%
101%一致	5%
100%一致	5%
95-99%一致	10%
85-94%一致	30%
75-84%一致	60%
50-74%一致	100%
0-49%一致	100%

*こちらの課金率は計算方法をご説明するための例となります。一致率の範囲や課金率は企業・分野・案件等によって異なります。

1.の解析結果と2.の課金率を使って、次の計算式で翻訳料金を算出します。

課金率を使った翻訳文字数の計算方法

繰り返し： 0文字×5% = 0文字
101%一致： 0文字×5% = 0文字
100%一致： 39文字×5% = 2文字
95-99%一致： 47文字×10% = 5文字
85-94%一致： 46文字×30% = 14文字
75-84%一致： 33文字×60% = 20文字
50-74%一致： 74文字×100% = 74文字
0-49%一致： 221文字×100% = 221文字

合計文字数 335文字

*小数点以下を四捨五入として計算しています。

文字数だけみると460文字ですが、課金率を使って翻訳メモリとの一致率を翻訳文字数に反映させると、335文字となります。この合計文字数を元に、翻訳料金を計算します。たとえば1文字10円とすると、次のようになります。

課金率を使った翻訳料金の計算

335文字×10円 = 3350円

翻訳支援ツールでは、あらかじめ設定した課金率を解析結果に反映させることができる機能がついているものも多くあります。そういったツールを使用すれば、課金率を使った計算を手動で行う必要はなく、先ほどの例でいう「335文字」が自動的に算出されます。

一致率	セグメント数	枚数	ワード数	文字数	%
全て	12	0.26	381	460	100
繰り返し	0	0	0	0	0
101%	0	0	0	0	0
100%	1	0.02	27	39	7.1
95%-99%	1	0.03	34	47	8.9
85%-94%	1	0.03	46	46	12.1
75%-84%	1	0.02	25	33	6.6
50%-74%	2	0.04	66	74	17.3
0%-49%	6	0.12	183	221	48

図1：解析結果例

課金率を反映させた解析結果例 (図2)

このように課金率を使用して翻訳料金を算出することで、翻訳メモリを使用して翻訳が効率化された成果を、実際の翻訳料金に反映させることができます。

課金率の問題点

こういった翻訳料金の計算方法は、歓迎されない場合があります。というのも、前回も記載しましたが、翻訳メモリの一致率＝翻訳作業の効率化とは限らない場合もあるからです。

たとえば95%一致と高い一致率の翻訳メモリがあたるはずの場所であっても、翻訳メモリ自体に誤訳が含まれていたりすれば、修正の手間がかなりかかります。また反対に、一致率が低くても、実際には修正がとっても簡単な場合もあります。

原文と翻訳メモリの一致率による機械的な計算結果で、翻訳にかかる作業時間をすべて正確に反映させるという方法には、もちろん限界があります。

不合理な翻訳料金につながるケース

課金率は、会社・プロジェクト等によって異なります。極端な例ながら100%一致の場合に、課金率がゼロと設定されている場合などもあると聞いたことがあります。ゼロということは中身をまったく見なくてよいかというと、100%箇所について、かなりの修正依頼をされる場合もあります。

このように課金率が不合理な翻訳料金につながるケースもあるかもしれません。ただこのあたりは、課金率の問題というより、個々の案件や、状況によるところも大きいのではないかと感じます。

実際課金率を使用しない場合でも、不合理といえる場合はあります。たとえば、翻訳会社の側では、お客様から繰り返し部分のお支払

	セグメント数	枚数	ワード数	文字数	%
課金率適用後	9	0.19	283	335	
全て	12	0.26	381	460	100
繰り返し	0	0	0	0	0
101%	0	0	0	0	0
100%	1	0.02	27	39	7.1
95%-99%	1	0.03	34	47	8.9
85%-94%	1	0.03	46	46	12.1
75%-84%	1	0.02	25	33	6.6
50%-74%	2	0.04	66	74	17.3
0%-49%	6	0.12	183	221	48

図2: 課金率を反映させた解析結果例

はなし、とご要望いただくことはよくあります。その場合、翻訳者の方にもご協力をお願いすることになります。さらには、翻訳会社の側では、繰り返し箇所だけではなく、「似ている部分」について、翻訳料金に反映させるようお客様からリクエストをいただく場合もあります。ご要望は理解できても、人力翻訳だけで行うのはむずかしい部分です。また、そういった部分を手計算で計算して翻訳料金に反映させるのは、労力を要します。

お支払や計算方法については、翻訳支援ツールや課金率を使った翻訳に限ったことではなく、不合理な状況は起こりえるかと思えます。状況に応じて、作業内容などの事前確認は必要です。

それでも便利な課金率

課金率を使った翻訳料金の計算には問題が生じる場合もあります。クライアントから料金を提示された際、案件の内容について確認が必要な場合もあるかもしれません。

ただ、通常は原稿との一致率が高い翻訳メモリを使うことで、そうでない場合に比べ、大幅に翻訳の効率化をはかることができます。時間短縮・品質向上といった効果が期待できます。効率化された分を翻訳料金に反映させるためには、課金率は、とても便利な計算方法です。

なお、翻訳支援ツールはもともとローカライズ業界から広まったものです。ですので、この計算方法もローカライズ分野の翻訳で採用されていき、浸透していきました。そして現在、翻訳支援ツール(CATツール)・翻訳メモリの広まりと共に、課金率を使用した翻訳料金のお支払という考え方も他の分野へと広まりつつある状況です。

Writer Profile

加藤 じゅんこ
Kato Junko



Memsources(メムソース) Marketing Manager (Japan)
ブログ: <http://blog.memsources.com/ja/>
早稲田大学大学院文学研究科西洋史専修修了
外資系医療機器の会社にて広報担当。突発的にWebデザインを学び、翻訳学校に通った後、翻訳会社に転職。トレーニング・サポートツール開発・業務フロー改善といった様々な角度からCATツールに携わる。
2015年8月よりMemsources Certified Trainerとしてコンサルティングサービスを実施、2016年2月より現職。地元元いたまにて、「もう一度英語をやる」大人向け英文法講座ものんびり楽しく開催中。

帽子屋の辞典十夜

高橋 聡

IT・技術翻訳者、JTF理事



第3回 「Longman を使い倒そう」

第2回に続いて、学習英英辞典の紹介を続けます。前回は、Oxford Advanced Learner's Dictionary (以下、OALD) を取り上げたので、今回はそれに並ぶLongman Dictionary of Contemporary English (以下、LDOCE) を取り上げます。

並ぶ、と書きましたが、歴史はLDOCEのほうがだいぶ新しく、初版の刊行が1978年です。ただし、版元であるLongman社は1724年創立という古い歴史をもち、1935年にはNew Method English Dictionaryという学習辞典も発行しています。OALDの初版が1942年でしたから、時期はほぼ同じ頃です。Longman社は、ロンドン大空襲で打撃を受けながらもいったん復活しますが、1968年にはPearson社に吸収され、Longmanの事業はPearson Longmanのブランドで存続します。近代的な編集になってLongman Dictionary of Contemporary Englishの名を冠した辞書は、Pearson社の事業として新たに始まり、今日に至っているということになります。

LDOCEは、新しい時代に作られたので、最初からコーパス (Longman

Corpus Network) をベースに作られている、つまり例文が生きた現代英語であるというのが大きい特徴です。

現在、デジタルで一般に入手できるのは、第5版 (2009年) ですが、Amazonなどで買おうとすると、DVD-ROMの有無、海外版/日本版などいろいろあるので、まずそこを整理しておきましょう。

1. オリジナルの英国版 (Pearson Longman刊) : <http://amzn.to/2akLcXQ>
2. 桐原書店から販売されている版: <http://amzn.to/2alcGNc>

後述しますが、辞書ブラウザLogophileで読み込む場合は、この桐原書店版が推奨されています。付属のDVD-ROMに違いはないはずなので英国版でも読み込めると思いますが、私も未検証です。

実は、これより新しい第6版もすでに出ています (2014年)。

3. LDOCE (6E) Paperback & Online: <http://amzn.to/2alt3Jy>

ただし、この版からはDVD-ROMが付属しなくなり、オンライン辞書のライセンスが付いてくという形になりました。つまり、第6版については、PC上で使えるデジタルのデータは存在しないということ。デジタルデータとして第6版が収録されているのは、カシオの電子辞書端末 (XD-Y20000、他) と、セイコーインスツルが教育市場向けに2016年春から始めたアプリ「語句楽辞典」 (<http://www.seiko-sol.co.jp/products/dictionary/>) などだけです。

Longman米語辞典も何種類ありますが、Logophileで読み込めるのはこれです。

4. ピアソンエデュケーション版: <http://amzn.to/2afd4ey> (7/31現在、入手がやや難しいようです)

また、ロングマンの英和という変わった辞典もあります。

5. ロングマン英和辞典: <http://amzn.to/2apxX9A>

これも書籍版だけで、PC上で使えるデータはありません。一部の電子辞書端末に収録されているほか、アプリ版があります (<http://apple.co/2atlQWH> など)。単に英英を翻訳して英和辞典を作ったのではなく、Longman Corpus of Contemporary Japaneseという日本語のコーパスを用い、日英の編集者が協力して作った辞典です。その成果だろうと思うのですが、ほかの辞書にはあまりない訳し方が見つかって感心することがあります。

以上のように、いろいろなバージョンを利用できるのですが、ここからはLongman Dictionary of Contemporary English (以下、LDOCE5) に絞って特徴を説明することにします。

ability S2 W1 /əˈbɪləti, əˈbɪlɪti/ UK US noun (plural abilities)

Word family Word origin

1. [countable] the state of being able to do something
ability to do something
 the ability to walk
 The health center serves all patients, regardless of their ability to pay.

2. [uncountable and countable] someone's level of skill at doing something:
 The test measures your mathematical ability.
 mixed ability classes
 of high/low etc ability
 students of average ability
 There are musicians of all abilities.
 somebody's abilities as something
 He showed his abilities as a leader.

3. to the best of your ability as well as you can:
 He completed the job to the best of his ability.

COLLOCATIONS

ADJECTIVES
 high/low/average ability a group of low ability pupils | Many of these students are of above average ability. | Children of high ability demand more absorbing tasks.
 great/considerable ability He was a young man of great ability. | These drawings required considerable ability on the part of the artist.
 remarkable/outstanding/exceptional ability a writer of remarkable ability | The company aims to

COLLOCATIONS

Collocations from this entry
 Collocations from other entries
 Collocations from the corpus

THESAURUS

Thesaurus
 Longman Language Activator
 Word sets

PHRASE BANK

Phrases from this entry
 Phrases from other entries

EXAMPLE BANK

Other dictionary examples
 Examples from the corpus

Pronunciation

Practice your pronunciation

USER NOTES

Add a note
 View note

これが、単独のアプリケーションとして起動した場合のメイン画面(上)と、関連機能のパネル(下)です。コロケーション、類語、用例集など、情報が非常に豊富です。辞書ブラウザLogophileに登録した場合は、このような画面になります。

ability

a • b i l • i • t y S2 W1 /əˈbɪləti, əˈbɪlɪti/ UK US noun (plural abilities)

1. [countable] the state of being able to do something
ability to do something
 the ability to walk
 The health center serves all patients, regardless of their ability to pay.

2. [uncountable and countable] someone's level of skill at doing something:
 The test measures your mathematical ability.
 mixed ability classes
 of high/low etc ability
 students of average ability
 There are musicians of all abilities.
 somebody's abilities as something
 He showed his abilities as a leader.

3. to the best of your ability as well as you can:
 He completed the job to the best of his ability.

COLLOCATIONS

Meanings 1 & 2

ADJECTIVES
 high/low/average ability a group of low ability pupils | Many of these students are of above average ability. | Children of high ability demand more absorbing tasks.
 great/considerable ability He was a young man of

ラベルやコロケーションのような基本情報は再現されますが、元アプリケーションの情報があまりに豊富なので、類語情報など再現できない情報もかなりあります。

さて、LDOCEを引いたときにまず意識したいのが、先の図でも見えている[S2]とか[W1]というラベルです。LDOCEでは、Longman Communication 3,000という英語の基本語彙3,000語が定められています(<http://bit.ly/2aomHwY>)。Longman Corpus Networkを調べた結果、英語の86%はこの3,000語でまかなえるのだそうです。その3,000語について、SはSpoken(話し言葉)、WはWritten(書き言葉)を表し、1は出現頻度1~1,000位以内、2は1,001~2,000位以内、3は2,001~3,000位以内を意味します。上の例で言うと、abilityは話し言葉として1,001~2,000位以内、書き言葉として1~1,000位以内ということです。つまり、この単語はやや書き言葉よりだが、ごく日常的な単語であるとわかります。ということは、翻訳するときには日本語側であまり難しい訳語を当てるわけにはいかない... そんな判断の材料にもなります。

また、語句の定義そのものも、原則として平易な2,000単語で記述するという方針です。専門用語などの記述で、定義語2,000を超える場合は、小型大文字(SMALL CAPITAL)が使われます。

OALDとLDOCEを比べると、OALDのほうが文法や語法などをラベル情報として詳しく載せており、LDOCEは語法なども語釈と用例で語る傾向があります。

grunt

- [intransitive] (of animals, especially pigs) to make a short low sound in the throat
【OALD8】
- [intransitive] if a person or animal grunts, they make short low sounds in their throat
【LDOCE5】

LDOCEは、専門用語の解説が詳しいことが多く、さらに百科情報(固有名詞など)も載っています。

carbon footprint

a measure of the amount of carbon dioxide that is produced by the daily activities of a person or company 【OALD8】
 the amount of carbon dioxide that a person or organization produces by the things they do, used as a way of measuring the amount of harm they do to the environment 【LDOCE5】

Picard, Captain Jean Luc

the main character in the television programme Star Trek: The Next Generation. Picard is a Frenchman played by the British actor Patrick Stewart. Picard is clever and brave and in charge of the Starship Enterprise. Star Trek: The Next Generation was the SEQUEL to STAR TREK.

Longmanは、書籍(+DVD-ROM)を買わなくても、オンライン版でかなりの情報を得ることができます(<http://www.ldoceonline.com/>)。ために、先で引いたability、grunt、carbon footprint、Picardを引いてみてください。コロケーションや類語情報はありませんが、基本的な辞書情報は載っています(carbon footprintはヒットしませんね)。

Writer Profile

高橋 聡
Takahashi Akira



CG以前の特撮と帽子をこよなく愛する実務翻訳者。翻訳学校講師。学習塾講師と雑多翻訳の二足のわらじ生活を約10年、ローカライズ系翻訳会社の社内翻訳者生活を約8年経たのち、2007年にフリーランスに。現在はIT・テクニカル文書全般の翻訳を手がけつつ、翻訳学校や各種SNSの翻訳者コミュニティに出没。最近では、翻訳者が使う辞書環境の研究が個人的なテーマになっている。ブログ「禿頭帽子屋の独語妄言」
<http://baldhatter.txt-nifty.com/trados/>

『何でも 教えて キカク』 第4回

田 島 奈 々

JTF/ISO規格検討会 翻訳プロジェクトリーダー
株式会社翻訳センター 品質管理推進部 部長

ISO17100から見た 世界の翻訳規格

『何でも教えてキカク』シリーズでは、これまで翻訳サービスの規格であるISO 17100を中心にご紹介してきましたが、今回はその周辺にある、世界の代表的な規格をいくつかご紹介します。ご紹介するのはアメリカ、カナダ、中国3か国の規格です。

【アメリカ】

ASTM F2575 -14 Standard Guide for Quality Assurance in Translation

- 発行機関：ASTM International
世界最大規模の民間の標準化団体（旧称：米国試験材料協会）
- 発行年：初版2006年、改訂2014年

■ 位置づけ：任意の国際規格

■ 分量：A4サイズ11ページ
（箇条1～10で構成）

■ 内容：

- 翻訳プロジェクトの仕様を合意する際のフレームワークを提供することが本規格の目的である。
- したがって、翻訳プロジェクトの全関係者（依頼者・翻訳サービス提供者の両方）を対象としている。
- 翻訳の品質を「予め合意した仕様の要求事項を満たす程度」と規定している。
- 翻訳プロジェクトを「Specification Phase」「Production Phase」「Post-Project Review」の3つのフェーズに分類している。
- 上記フェーズごとに翻訳サービスの品質に影響する要素、すなわち、仕様に盛り込むべき項目を紹介している。
- 2012年にISOから発行されたガイダンス文書ISO/TS 11669:2012 Translation projects -- General guidanceと内容が近い。

ヨーロッパ

EN 15038: 2006 Translation services
- Service requirements

→ ISO 17100の発行に伴い廃止

カナダ

CAN/CGSB-131.10-2008
Translation Services

中国

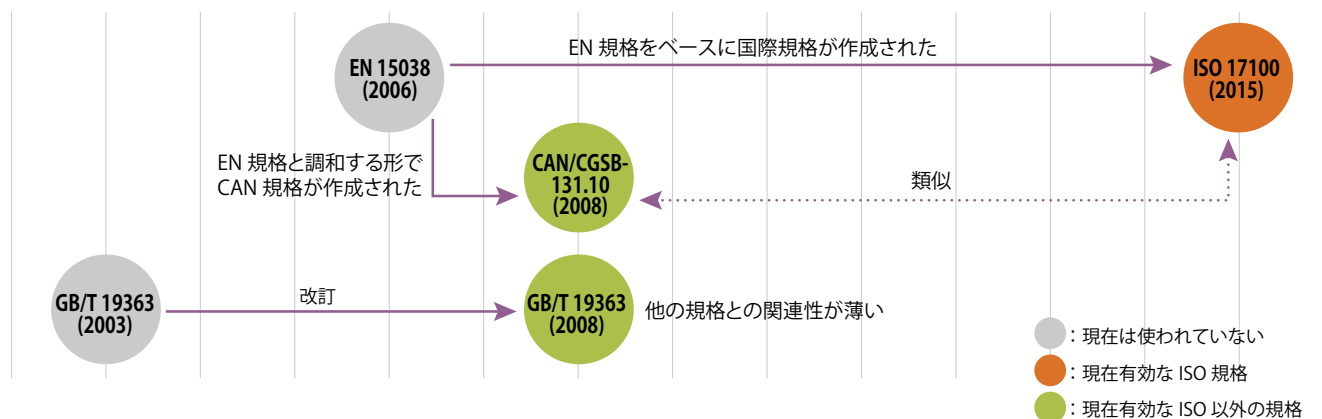
GB/T 19363.1-2008
Specification for translation service
- Part 1: Translation

アメリカ

ASTM F2575 -14
Standard Guide for Quality Assurance in Translation

図1：世界の翻訳関連の規格

翻訳のサービス(プロセス)に関わる規格



翻訳の仕様に关わる規格

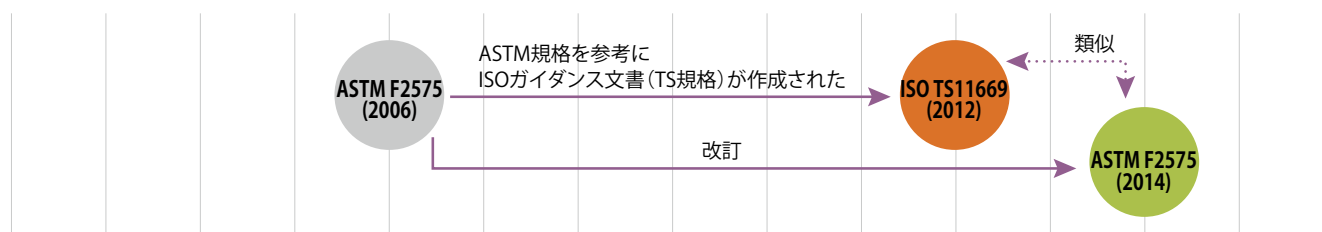


図2: 世界の翻訳関連の規格の関係

【カナダ】

CAN/CSB-131.10-2008 Translation Services

- 発行機関: Canadian General Standards Board
国家規格策定機関として Standards Council of Canada から認定された機関
- 発行年: 初版 2008 年
- 位置づけ: カナダの国家規格
- 分量: A4 サイズ 9 ページ + 附属資料 (箇条 1 ~ 9 で構成)
- 内容:
 - ・翻訳サービス提供者が翻訳サービスを提供する際のプロセスの要求事項を規定している。
 - ・プロセスに加えて、翻訳者の力量および資格などのリソース面も規定している。
 - ・ISO 17100 の前身である EN 15038 と内容が近いが、カナダ特有の規定 (品質マネジメントシステムに関する記載) が盛り込まれている。

【中国】

GB/T 19363.1-2008 Specification for translation service – Part 1: Translation

- 発行機関: 中国の国家品質監督検査検疫総局
- 発行年: 初版 2003 年、改訂 2008 年
- 位置づけ: 国家が推奨する規格
- 分量: A4 サイズ 10 ページ (箇条 1 ~ 4 で構成)
- 内容:
 - ・翻訳サービス提供者が翻訳サービスを提供する際のプロセスの要求事項を規定している。
 - ・中国語の文字カウント方法など、中国特有の項目も含まれる。
 - ・これとは別に GB/T 19682-2005 Target Text Quality Requirements for Translation Services という翻訳品質に関する規格も存在する。

規格同士の関係性は図2を参照してください。現在発行されている翻訳に関する規格は主に、翻訳サービスの「プロセス」を規定したものと、クライアントと合意すべき「仕様」を規定したものに大別されることが分かります。

将来的には、翻訳物の品質や評価方法に関する規格も誕生する可能性がありますので、今後も世界の動向を見守りたいと思います。

Writer Profile

田嶋 奈々
Tajima Nana



兵庫県出身。神戸市外国語大学イスパニア語学科を卒業後、貿易会社での勤務を経て、(株)翻訳センターに入社。メディカル分野のチェッカーとして約10年間の経験を積んだ後、2012年以降は社内の品質管理責任者として全社的な仕組みづくりを担う一方で、日本翻訳連盟の会員企業の一員としてISOの国際標準化活動(特に翻訳サービスに関する国際規格ISO17100の策定)に携わっている。



翻訳品質の ランチボックス

西野 竜太郎

翻訳者／コンサルタント

第3回 従来のエラーベース評価手法

第1回と第2回で経営学者Garvinの論に基づいた翻訳品質の5分類を紹介しました。その5つのうち、測定可能な特性を用いるのがプロダクトベースです。プロダクトベースの代表的な手法には、訳文中のエラー数で品質を測る「エラーベース」の評価手法があると考えられます。エラーベース評価手法では、あらかじめエラー項目（誤訳、スタイル違反など）を用意しておき、該当するエラーが訳文チェック中に見つかったら重大度に応じて点数を付けます。その合計点数がある値を超えると、納品物を不合格にするという利用方法が一般的です。

第3回では、従来から用いられてきたエラーベース評価手法の具体例として、LISA QA ModelとSAE J2450を取り上げます。さらに、それらに対する批判についても紹介します。

LISA QA Model

LISA QA Modelは、ローカライゼーション業界団体であるLISA (Localization Industry Standards Association) が開発したエラー評

価用のツールです。エラー項目自体と、評価実施用ソフトウェアの両方を指します。1995年にバージョン1が公開され（注1）、最新版は3.1です。LISAは2011年に解散してしまったため3.1以降のアップデートはありませんし、公式ウェブサイトも存在しません。ただし古いウェブサイトを保存しているInternet Archiveを参照すると、

図1に示すLISA QA Modelのページが見つかります。中央に写っているのがLISA QA Modelのソフトウェア画面です。

次にLISA QA Modelのエラー項目ですが、いくつかのカテゴリがあります。大きく分けて、言語、フォーマット、機能テストです。このうち「言語」には誤訳や用語違反といったエラー、「フォーマット」にはレイアウトなどに関するエラー、「機能テスト」にはリンク切れなどのエラーが分類されています。ここでは最初の「言語」のカテゴリに分類されるエラー項目を見てみましょう。

LISA QA Modelの言語カテゴリにおけるエラー項目は以下の7つです。

- ・ 誤訳 (Mistranslation)
- ・ 正確さ (Accuracy)
例：訳抜け
- ・ 用語 (Terminology)
- ・ 言葉づかい (Language)
例：文法、句読点
- ・ スタイル (Style)
- ・ 各国慣習 (Country)
例：日付や住所の形式
- ・ 一貫性 (Consistency)

LISA QA Model 3.1

The LISA QA Model is the industry leading tool for the evaluation of localized projects' quality.

Table of contents

- Innovative New Interface
- Feature List
- Who should use LISA QA Model 3.1?
- LISA QA Model Version 3.1 Pricing

Category	Minor	Major	Critical
Mistranslation	0	1	3
Accuracy	0	5	0
Terminology	0	0	1
Language	4	0	0
Style	0	2	0
Country	0	0	0
Consistency	1	0	0

Approximately 20% of all companies involved in localized product testing use the LISA QA Model in some way, making it the most widely-used QA metric in the localization industry today.

図1：LISA QA Modelのウェブページ

(引用元：<http://web.archive.org/web/20091013080413/http://www.lisa.org/LISA-QA-Model-3-1.124.0.html>)

LISA QA Modelの場合、各エラー項目に対して3つの重大度を設定しています。深刻 (Critical)、重度 (Major)、軽度 (Minor) で、それぞれ10点、5点、1点といった点数が割り当てられています。

このLISA QA Modelはローカリゼーション業界で有名で、企業独自の品質評価モデルの多くはこれを参考にしているとされます (注2)。そのためLISAが解散した現在であっても、どこかで似たようなエラー項目を目にしたことがある方は多いのではないのでしょうか。

SAE J2450

自動車や航空機に関連する業界団体であるSAE (Society of Automotive Engineers) による標準です。自動車の保守情報の翻訳品質を測定する目的で、2001年に発行されました。やはり自動車業界でよく用いられています。

SAE J2450には以下の7つのエラー・カテゴリーがあります。

- ・ 用語間違い (Wrong Term)
- ・ 意味間違い (Wrong Meaning)
例：原文の意味と違う
- ・ 抜け (Omission)
例：原文に対応する部分がない
- ・ 構文上のエラー (Structural Error)
例：文法、語構成、性・数などの一致
- ・ つづりの誤り (Misspelling)
- ・ 句読点のエラー (Punctuation Error)
- ・ その他のエラー (Miscellaneous Error)

SAE J2450も深刻 (Serious) と軽度 (Minor) という2段階の重大度を設定しています。ただしカテ

リーによって点数が異なります。例えば、用語間違いのケースでは深刻が5点、軽度が2点、つづりの誤りのケースでは深刻が3点、軽度が1点といった具合です。ちなみにSAE J2450には、評価中にエラー・カテゴリーや重大度の選択に迷ったときの「メタルール」も設定されています。エラー・カテゴリーの場合は上記リストでより上にある項目を優先的に選び、重大度の場合はより重い方を優先的に選ぶというルールです。

エラーベースに対する批判

エラーベース評価手法ではエラー数や重大度といった数値を用いるため、比較的客観的な評価が実施できます (注3)。そのため翻訳業界では広く採用されています。前述のように、LISA QA Modelを参考にして自社の評価モデルを作っている企業も数多く存在します。しかし一方で、エラーベースに対する批判もあります。こういった批判についても確認しましょう。

文章レベルに対する意識が薄い

エラーベース評価手法では原文と訳文を1文ずつ対照し、エラーの有無をチェックする方法が基本です。1文ずつ確認するため、誤訳、抜け、用語間違い、スタイル違反といったエラーを発見できます。語や文のレベルに注目していると言えるでしょう。しかし語や文のレベルに注目するあまり、文章 (テキストとも) 全体というレベルに対する意識が薄いとされます (注4)。

つまり、文章全体がその分野 (例：学術論文、マニュアル) の慣習に従って翻訳されているかどうかを見落としがちになってしまうという批判です。簡単に言うと「木を見て森を見ず」ということでしょう。

さまざまな種類の文書に対応できない

例えば特許文書とマーケティング資料では、翻訳で重視される項目が異なるでしょう。前者では「正確さ」かもしれませんが、後者では「流暢さ」かもしれません。それにもかかわらず、どの種類の文書に対しても単一のエラー分類や重大度を用いた場合、適切な評価ができない可能性があります。例えばLISA QA Modelをどの種類の文書にも適用することは「one-size-fits-all」 (注5) と呼ばれ、批判されています。

批判に応えようとする新しい方法

従来のエラーベース評価手法は比較的客観的な方法として業界で受け入れられている一方、批判もありました。そのような批判に応えるような形で最近いくつかの方法が新しく提唱されています。TAUS DQFやMQMです。次回記事からはそういった新しい方法について紹介します。

Writer Profile

西野 電太郎

Nishino Ryutaro



合同会社グローバリゼーションデザイン研究所代表社員。TAUS Representative、JTF標準スタイルガイド検討委員も務める。情報システム学修士 (専門職)。著書『アプリケーションをつくる英語』で第4回ブクログ大賞 (電子書籍部門) を受賞。雑誌記事に「Learning localization in context」 (MultiLingual誌 2013年12月号) など。趣味はジャズ鑑賞とアニメ鑑賞。

注1: Internet Archiveのページによる。http://web.archive.org/web/20091014010943/http://www.lisa.org/globalizationinsider/2004/01/building_qualit.html

注2: O'Brien, S. (2012). Towards a dynamic quality evaluation model for translation. The Journal of Specialised Translation, (17).

注3: もちろん、どのエラーや重大度を選ぶかといった点で主観性は完全には排除できない。

注4: Colina, S. (2011). Evaluation/Assessment. In Y. Gambier & L. van Doorslaer (Eds.), Handbook of Translation Studies (Vol. 2, pp. 43–48). John Benjamins Publishing Company.

注5: Lommel, A., Uszkoreit, H., & Burchardt, A. (2014). Multidimensional Quality Metrics (MQM): A Framework for Declaring and Describing Translation Quality Metrics. Revista Tradumàtica, 455–462.

翻訳者のための Word 入門

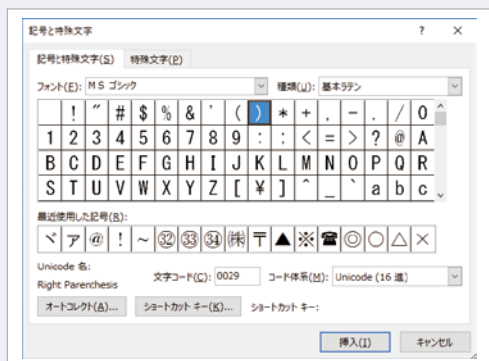
新田 順也

ブログ「みんなのワードマクロ」管理人

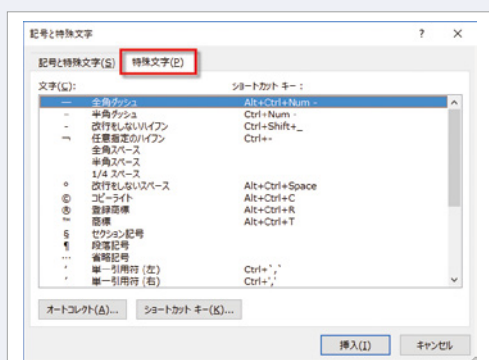
第3回 文字を効率的に入力する!



画面1: 記号と特殊文字ダイアログボックス1



画面2: 記号と特殊文字ダイアログボックス2



画面3: 記号と特殊文字ダイアログボックス3

この機能は日本語入力システムがオンのままで英字を誤入力したときに便利に使えます。[F10] 以外に、[F6] ~ [F9] にも別の変換機能が隠されています。お試しください。

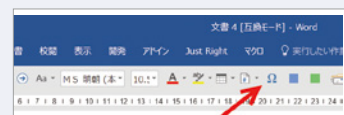
3. 記号の入力

記号(ギリシャ文字、単位の記号、〒、△、※など)に応じて入力方法を使い分けれます。

3-1. [記号と特殊文字] ダイアログボックス

Wordの[挿入] タブの右端のボタンから記号を入力するためのダイアログボックスを開きます。(画面1,2)

このダイアログボックスにて、文字を選択し[挿入] ボタンをクリックして文字を入力します。ただ、このダイアログボックスを開くのが手間なので、クイックアクセスツールバーに登録するとよいでしょう。



クイックアクセスツールバーについては第1回の記事で紹介しました。覚えた知恵を蓄積する便利な機能です。具体的な登録方法については、以下の記事をご覧ください。

<http://www.wordvbalab.com/archive/2548/>

編集記号などの特殊文字なら、ショートカットキーで入力できます。[記号と特殊文字] ダイアログボックスの[特殊文字] タブをクリックしてください。一部の文字にショートカットキーが設定されています。(画面3)

3-2. Symbolフォントの入力

Symbolフォントの入力に、ショートカットキーを用います。IMEやATOKをオフにした状態で、[Ctrl] +

今回は、文字入力の便利技を紹介します。気に入った技を実務ですぐに使ってください。このような便利技は何度も使うことで身につきます。記憶するのではなくて体が覚えるまで繰り返し練習します。実務が反復練習の場になりますから、日々の仕事で使うとよいと思います。

1. 和文中の半角スペースの入力

日本語入力中に半角スペースを挿入するには、[Shift] + [Space] を押します。全角スペースのかわりに半角スペースが挿入されます。

あいうえお |

2. 和文中の半角英字の入力

日本語入力システム(IME、ATOK)がオンのままでも半角英字の入力ができます。文字を入力して変換候補の確定前に[F10]キーを押します。すると、変換前の文字列がすべて半角英字になります。

てい s | ⇨ this

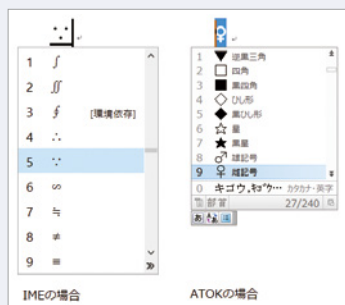
[Shift] + [Q] を押した後に [M] キーを押すと、Symbolフォントのミュー記号 (μ) を入力できます。さらに、文字列を選択してこのショートカットキーを使うと、選択された文字列全体がSymbolフォントに変換されます。

abcde → αβχδε

Symbolフォントの入力を解除する場合には、[Ctrl] + [Space] を使います。これは文字書式の解除を意味します。

3-3. 「よみ」から入力

たとえば、「ほし」と入力して [Space] キーを何度も押して変換候補を切替えると、「★」や「☆」を入力できます。また、「きこう」と入力して変換を続けてみてください。見知らぬ記号も候補として表示されます。よく使うものは変換候補の上位に表示されるので、2回目以降は候補を見つけやすくなります。



4. 文字変換を活用した速記術

Wordのオートコレクト機能と日本語入力システム (IMEやATOK) をカスタマイズして、文字の入力スピードを向上します。英語入力時にはWordのオートコレクト機能を使い、日本語入力時には日本語入力システムを使います。

オートコレクトはスペルミスや修正するための機能ですが、これを速記用にカスタマイズします。たとえば、「msw」を「Microsoft Word」と「修正」するよう登録します。日本語入力システムも同様

に、「msw」の入力で「Microsoft Word」と変換されるよう短縮読みの単語登録をします。

第2回の記事で説明した「蓄積」と「自動化」の仕組みとして、「オートコレクト機能」や「日本語入力システム」を使うのです。

4-1. オートコレクト機能で速記

Wordで [Alt] → [T] → [A] と順番に押して [オートコレクト] ダイアログボックスを開きます。修正文字列と修正後の文字列を入力して [追加] ボタンをクリックします。(画面4)

ここで登録した変換は、他のOffice製品でも使えます。「autocorrect list examples」でGoogle検索して、英語ネイティブが活用する速記のアイデアを参考にしてみましょう。また、私は、オートコレクトを一括で登録・削除するツールを公開しています。興味のある方は「AutoCorrect Booster」とGoogle検索してください。

4-2. 日本語入力システムで速記

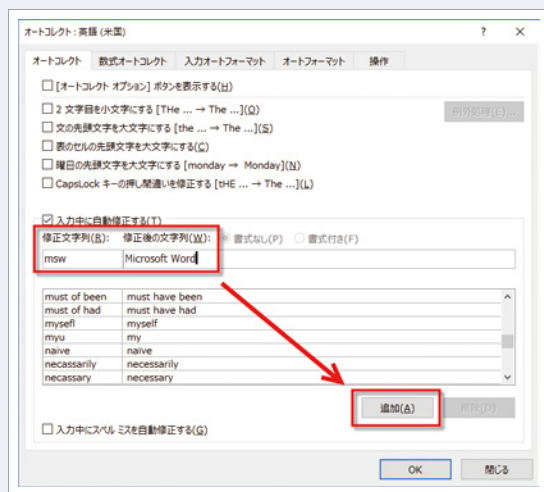
これは、Word以外のソフトで使える速記方法です。Wordの単語の登録用ボタンを活用します。[校閲] タブの以下のボタンから日本語入力システムの登録ダイアログを開きます。



IMEを使用している場合には、以下のダイアログが開きます。ここで、登録する [単語] 欄に登録する語句を入力し、[よみ] 欄に短縮読みを入力し、以下のように登録します。(画面5)

次回から住所を入力するときには「j s」と入力すればよいわけです。詳しい登録方法や登録例について、「(IMEまたはATOK) 短縮よみ

登録例」でGoogle検索をして調べてみてください。



画面4：オートコレクトダイアログボックス



画面5：IMEの登録方法

Writer Profile

新田 順也
Nitta Junya



特許翻訳者、Wordアドイン開発者、Wordのセミナー講師。エンジニアリング会社、特許事務所を経て独立。ブログで数百のWordマクロを公開。翻訳をする傍ら、翻訳会社、マニュアル制作会社、電機メーカー、特許事務所等々のクライアントにWordのカスタマイズやWordマクロ活用のコンサルティングを実施。2011年から毎年Microsoft MVPをWord部門で受賞。代表ソフトは、Wordで動く翻訳チェックソフト「色deチェック」。

■ブログ「みんなのワードマクロ」
<http://www.wordyalab.com/>

機械翻訳の近未来

本間 奨

日本特許翻訳株式会社 代表取締役

第3回 統計的機械翻訳

1 統計的機械翻訳とは

今回から2回に分けて人手翻訳と(国研)情報通信研究機構(NICT)の語順変換統計的機械翻訳と市販機械翻訳ならびにGoogle翻訳について比較していきたいとおもいます。

語順変換統計的機械翻訳(語順変換SMT)は、原文とその訳文の対を集めた対訳コーパスを用いて、英日の二言語間の単語や句の対応関係を抽出した翻訳モデル(確率付きの対訳辞書と語順変換表)と訳文の言語らしさを表現する言語モデル(英日翻訳であれば、並びの自然さを表す確率付き日本語の単語連鎖データ)を導出し、これらの確率の積を最大化する訳文候補を出力するものです。<http://www.nict.go.jp/press/2013/03/21-1.html>

この翻訳エンジンの最重要部分は、原文と訳文の文対をもとに作成されるフレーズデータベースにあり、NICT翻訳エンジンは、2013年では日米対応特許から作成した1750万文対に基づきエンジンを構築しましたが2016年には、特許庁との共同開発により、2.2億文対ま

で拡張されました。

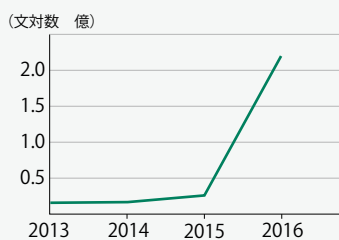


図1: NICTの語順変換統計的機械翻訳エンジンに搭載された文対数

以下では最新の2.2億文対による語順変換SMTエンジンに、日本特許翻訳株式会社の(前処理・後処理システム) MTPlusシステム、および(一社)化学情報協会の化合物表記翻訳システムを用いて、訳語の適切性の検証を行ったものです。(以下では、このシステムをSMT+MTPlusとしました)

検証には、原文と人手翻訳、機械翻訳(市販翻訳ソフト)の訳文例は特許庁「特許文献機械翻訳の品質評価手法に関する調査」(https://www.jpo.go.jp/shiryou/toushin/chousa/pdf/kikai_honyaku/h25_01.pdf)を用いて、以下に引用文献として引用頁を明記しました。

2 単語の訳語と検索システムのヒット件数

以下の簡単な英文を人手翻訳した結果と、従来型機械翻訳結果と、SMT+MTPlusで比較した結果を以下に示しました。

【原文】 引用文献 P147

4. Device (10) according to claim 3, wherein said element (60) which can be operated by the user is slidable along said cavity (14).

【人手翻訳】

4. 請求項3に記載の装置(10)において、ユーザにより操作され得る前記エレメント(60)は前記空洞(14)に沿ってスライド可能である、装置。

【従来型機械翻訳】

④.請求項3に記載のデバイス(10)において、ユーザにより作動されることができる前記素子(60)は、前記空腔(14)に沿って摺動可能である。

【SMT+MTPlus】

4. 請求項3に記載の装置(10)であって、そこにおいては、ユーザが操作可能な操作要素(60)は、前記キャビティ(14)に沿って摺動可能であることを特徴とする。

上記訳文と原文を比較して、原文中の単語とその単語の訳語を抽出し、特許庁の提供する特許検索システムJ-PlatPat (<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>)を用いて、訳語を検索キーワードとして、そのヒット件数を得ました。結果を表1に示しました。

【解説】ヒット件数の合計では、従来型機械翻訳>SMT+MTPlus>人手翻訳の順になります。従来型機械翻訳は、用語間の関連性は考慮しないので、単純合計値はこうに大きくなる場合があります。

一方、複数の訳語をANDで検索した場合では、SMT+MTPlus>人手翻訳>従来型機械翻訳となります。SMTでは用語間の共起性に大

きなウエイトにおいて訳語選択を行っていることがわかります。一方、従来型機械翻訳では、用語間の関連性とは無関係に同一公報にあらわれないような異分野の用語が同時に用いられることもありうるので、(本ケースでは空腔と摺動可能と素子はそれぞれ異分野) 同時に検索するとヒットしなくなります。(表1)

3 複合語の訳語と検索システムのヒット件数

2と同様の手法で、以下の原文を元にした訳語から、原文のキーとなる複合語によるヒット件数を求めた、結果を表2にまとめました。

【原文】引用文献 P137

【0021】 The strength of the flexible hose can be increased if the pressure support elements comprise a metallic wire.

【人手翻訳】

【0021】 可撓性ホースの強度は、**圧力支持部品**が金属ワイヤーを含む場合に増加される。

【従来型機械翻訳】

【0021】 **圧力支持体素子**をメタリックワイヤから構成する場合、可撓性ホースの強度を増加させることができる。

【Google翻訳】

圧力支持要素は、金属ワイヤを含む場合【0021】、フレキシブルホースの強度を高めることができます。

【SMT+MTPlus】

【0021】 **圧力支持部材**は、金属ワイヤを含む場合、可撓性ホースの強度を高めることができる。

【解説】複合語では、単語のAND検索同様と考えられ、複合語1フレーズで、複数の単語の語順を含めたAND検索となるため、1語でも大きな差異が生じます。また、従来型機械翻訳は、supportを支持体として翻訳しており、フレーズとしてではなく単語の列挙として翻訳しているようです。ヒット件数は、

原語 (単語)	人手翻訳		機械翻訳		SMT+MTPlus	
	訳語 (語幹)	ヒット 件数	訳語 (語幹)	ヒット 件数	訳語 (語幹)	ヒット 件数
slidable	スライド可能	38,550	摺動可能	73,435	摺動可能	73,435
cavity	空洞	44,116	空腔	295	キャビティ	59,877
element	エレメント	46,884	素子	714,300	要素	245,298
operated	操作	831,786	作動	4,430,342	操作	831,786
element (60) which can be operated	エレメント*操作	3,978	素子*作動	20,171	要素*操作	27,067
slidable along said cavity (14).	スライド可能 *空洞	333	摺動可能 *空腔	20	摺動可能 *キャビティ	1,200
element (60) which can be operated by the user is slidable along said cavity (14).	エレメント*操作 *スライド可能 *空洞	1	素子*作動 *摺動可能 *空腔	0	要素*操作 *摺動可能 *キャビティ	29

表1: 単語のヒット件数の比較

原語 フレーズ(3単語)	人手翻訳		機械翻訳		SMT (Google 翻訳)		SMT+MTPlus	
	訳語 (語幹)	ヒット 件数	訳語 (語幹)	ヒット 件数	訳語 (語幹)	ヒット 件数	訳語 (語幹)	ヒット 件数
the pressure support elements	圧力支持 部品	0	圧力支持 体素子	0	圧力支持 要素	1	圧力支持 部材	17

表2: 複合語のヒット件数の比較

SMT+MTPlus > 人手翻訳 = 従来型機械翻訳の順になります。

4 SMT の統計的な訳語選択機能

SMTでは訳語を複数の関連ワードから統計的に抽出するため、複合語や同時にANDでキーワード論理積で検索した場合、人手翻訳よりもSMT+MTPlusのヒット件数が上回るケースがあることは注目に値します。SMTの特性として、訳語選択はより統計的にヒット件数の大きな訳語を選択し、訳語間の関係性にも考慮している傾向があることが分かります。

このような訳語選択傾向からいえることは、SMTに適した用途の一つとして、外国特許公報をSMTで自動翻訳したテキストを特許情報検索システムで利用するような用途があります。このようなSMTによる翻訳文をテキストとした検索システムでは、複合語や複数キーワードのAND検索で、ヒット件数が従来型機械翻訳より大きく

なる可能性が高いことと、異分野のキーワードがノイズでヒットする確率が減少することが期待されます。

Writer Profile

本間 奨

Honma Susumu



富士電機株式会社に感光ドラムの研究開発を行った後、富士ゼロックス株式会社で、有機感光体の開発・生産に携わり、2000年から特許情報検索システムDocuPatの事業立ち上げ・推進をおこない、その後日本発明資料にて語順変換統計的機械翻訳エンジンを用いた英日・中日翻訳システムMT Plusを開発、特許庁中国実案抄録翻訳事業に採用され、現在100万件以上J-PlatPatで利用されている。

2015年2月に日本特許翻訳株式会社を設立、昨年9月から大手企業中心に外国公報の多言語高精度機械翻訳サービスを提供している。最近、pdfやワードの科学技術文献をレイアウト通りに翻訳するドキュメント翻訳サービスを開始した。

翻訳を取りまく環境は様変わりしていきます。ときには戸惑うこともあるでしょう。でも、「翻訳と私」という関係は変わらないのではないのでしょうか。どんなに環境が変わろうとも、自分の軸がしっかりと根づいていたら、日々変わっていく風景にも心を感わされることはないかもしれません。初心に戻ったり、立ち止まったり、未来に思いを馳せたり、「翻訳のこと」、一緒に考えてみませんか? 「なぜ翻訳をするようになったのか」 今を見据えると、きっと未来が見えてきます。翻訳と皆さんのこと、教えてください。

コラムオーナー 矢能 千秋

Where there is a will, there is a way.

翻訳と私

第2回

なぜ、「出版翻訳家」になりたかったのか

翻訳の仕事を初めていただいたのは、2003年の年明けだった。翻訳会社が主催する、ある翻訳オーディションに応募するうちに、リーディングの仕事を受けるようになり、出版のチャンスがめぐってきたのだ。本を出せるなんてウソのようで、夜も昼もなく無我夢中で訳に取り組んだ。完成した本を手にしたときのうれしさは特別なもので、今でも忘れられない。

それから現在まで出版翻訳に取り組むことによって、多くの人たちとのつながりができた。翻訳というのは一筋縄ではいかない仕事

だ。原語を理解すること、言葉をつむぐことの難しさ。仕事のやり方だって、決まったマニュアルがあるわけではない。先輩方や仲間たちと情報をわかちあえたからこそ、よりよい選択をしてこられたと思っている。

だが、「翻訳家になろう」と思うにいたるまでにはいくつもの挫折があった。今、こうして翻訳に関わってられることが何だか不思議なことに思える。

大きな転機

私は幼い頃から本を読むことが大好きで、登場人物の一人になったかのように物語に入りこんでは、そのつづきを考えるような子どもだった。そして、世界中の国をめぐる、別の価値観をもつ人々に会ってみたいと思うようになった。

だが、それ以上に興味をもったのが数学だった。小学生のときには公文式数学のすべての課程を終えてしまうほどのめりこみ、中学・高校と進むにつれて、定理のその先にあるものが知りたくなった。

しかし、高校一年生のある日、自分をとりまく世界が変わった。体

調が悪くて何にもできない。それなりに楽しい高校生活だったが、急に学校に行けなくなってしまったのだ。現在ではそんな症状についての研究が進んでいるようだが、当時は治療法はとくになかった。なんで自分だけこうなってしまったのかと落ちこむ日々。そんな状態が長くつづき、結局、大検という道があるのを知って、自主退学を選んだ。都立小石川高校を辞めたのは18才になる直前だった。

数学をやりたいという夢は行き場を失くす。自分の体験を何かに生かしたいという気持ちが先走り、医学をめざして受験するも、そんな状態だからせいぜい補欠合格。すべりどめで一つだけ受けた文系大学、神田外語大学に通うことになる。理系の私がここで英語をやって、いったい何になるのだろう、という気持ちだった。

「翻訳家になりたい」

自分を奮い立たせるためには目標が必要だった。自分にできそうなことから、あたらしい目標を探した。できそうだっていっても、本が好きだ、人の役に立つことをしたい、そして、英語を無駄にしたくない、といった抽象的なことだ。

とくに本については特別な思いがあった。たとえば、物語には人を救う力がある。すこし視点を変えるだけで、同じものがまったく別のものに見えてくる。辛いときには、自分を主人公とした物語をいくつか創ってみるといい。悲しい結末になるのも、ハッピーエンドになるのも、自分次第だということがわかる。また、海外の書籍を読むことによって、ものごとは白・黒というように一つの価値観で測れるものではなく、ある場所では正しいことでも、別の場所に行けば非難されかねないということがわかってくる。

そして「翻訳家」という仕事に思いついた。本をつくることによって、大変な状況にある人たちに何



初めての訳書
『幸せのねむる川』

らかのメッセージを送ることができかもしれない。もし、その本を読んだ人が、もう一度やってみようという気持ちになれたとしたら、どうだろう。きっと私自身にとってもやりがいのある仕事になるにちがいない。簡単なことではないとわかってはいたが、出版翻訳家をめざすことに決めた。



これまで、いま、そして

一冊目はすでに書いたとおり、リーディングの仕事から出版にこぎつけた書籍だった。リーディングの仕事を三十冊ほどして、そのうちの何冊かは本になった。ただ、翻訳会社があいだに入っている以上、出版社とのつながりはできにくい。どうすれば出版社から仕事をいただけるようになるのだろうか、「出版社・編集者とのつきあい方」というセミナーに出席した。そのときの講師が藤岡啓介先生だった。翻訳勉強会にも一年ほど通ったが、尻込みする私の背中を何度押ししていただいたかわからない。「メールで交渉するなどもってのほか、電話よりも直接会いに行け」。また、出版関連の集まりに連れて行っていただいたり、人を紹介していただいたりするうちに、出版の世界の一端が感じられるようになってきた。

「洋書の森」も、そんな集まりの一つだった。あたらしく立ち上げた「洋書の森」で書架整理などのお手伝いをしないかと誘っていただいたのだ。2007年、出版クラブに設立された洋書ライブラリーで、

まだ著作権が売れていない原書を翻訳者が自由に閲覧することによって、出版の機会をつくるといったものだった。各地の書店でフェアが開催されている「アルケミスト双書」も、洋書の森で見つけた原書を創元社に持ちこんだことで実現したシリーズだ。洋書の森は今、第一線で活躍している翻訳家によるセミナー、毎月の書架整理&おしゃべりサロンなど、翻訳者の卵からベテランまでが集い、情報を交換する場となっている。

『ガンに勝つ極意』キム・ウィシン著（サンマーク出版）は、洋書の森でもお世話になっているコーディネーターさんにリーディングの仕事をいただいて、出版につながった一冊だ。出版不況ということもあって、リーディングも、持ち込みも、企画が通ることは決して多くない。いくらレジュメを作ってもダメなんじゃないかとめげることもあるけれど、コツコツと続けるしかない。

昨年から、YA・児童文学の翻訳勉強会に参加させていただいている。洋書の森ができた頃に紹介していただいた方でもある。読者である若い人たちに素直に伝わるような文章を書くことは本当に難しい。ちょっとした言いまわし一つとっても、おろそかにはできない。自分たちは天才ではないのだから、訳文を何度でも読みなおさない。そうすれば、きっとよくなっていく、と言われたとき、誠実に、謙虚に言葉と向き合っていくことの大切さを思った。このようなジャンルの書籍を通して、若い人たちにメッセージを送るということが自分がやりたかったことに近いのではないかと考えはじめています。

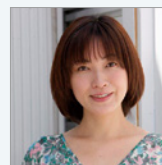
文章の書き方や語学力などの翻訳技術を鍛える以前のこともかもしれないが、ここでは私自身の「心のありか」を伝えたかった。洋書の森ボランティアスタッフとしての仕事への思いも、翻訳家になると決心したときの気持ちにどこか通じている。こうして振りかえってみると、この気持ちが自分を導いてくれているようにも思える。



Writer Profile

藤田 優里子

Fujita Yuriko



英日・韓日翻訳者。大学卒業から、最初の訳書が出版されるまでの約十年のあいだに、フランス、ドイツ、韓国への留学を経験する。洋書の森のボランティアスタッフとしてセミナーの企画に携わる。また、地元柏で開催している軒先ブックマーケット「本まっち柏」に運営スタッフとして立ち上げから携わる。訳書に『時の終わりへ——メシアン・カルテットの物語』レベッカ・リシン著（アルファベータ）、『黄金比』、『ルーン文字』、『リトル・ピープル』（創元社）など。

MT

Machine
Translation

TM

Translation
Memory

PE

Post-
editing

翻訳テクノロジーを学ぶ

第3回

～ 翻訳メモリ編

その2～

立見 みどり

立教大学 異文化コミュニケーション研究科 特任准教授

連載「翻訳テクノロジーを学ぶ」の第3回目は、前回に引き続き、翻訳者であり翻訳テクノロジーの研究と翻訳教育にも携わる筆者の目から、翻訳メモリについて考えます。

前回は、翻訳メモリの導入によって翻訳作業の中でも退屈な繰り返し部分が機械化されたことで、翻訳者が「非人間的」な仕事から解放され、翻訳作業が進化したと書きました。今回は、その後翻訳メモリを使うことが普通になるにつれ、反対に、翻訳の仕事がそれ以前よりも「非人間的」なものになったと感じた点についてお話しします。翻訳メモリというテクノロジーやそれを活用した翻訳業務そのものを否定するつもりはありません。しかし翻訳メモリを最大限に活用するために、翻訳の仕事になんらかのひずみが生じていることも感じています。そのことについて率直に書いてみようと思います。

（翻訳メモリの仕組みや使い方といった実践的なことについては、ぜひ『翻訳テクノロジーを学ぶ』ビ

デオ教材 (<http://www.apple-eye.com/ttedu>) の「翻訳メモリ編」をご覧ください。）

自然な流れを欠いた原文

翻訳メモリが普及し始めてから、翻訳を発注する側も翻訳者も、翻訳作業を、文章やテキスト単位でなく、文（翻訳セグメント）単位で考えることが普通になったように思います。実際に翻訳料金はセグメント単位で割り出した原文の一致率を基準に計算されます。これに関連し、翻訳メモリ以前にはほとんど見られなかったタイプの原文、つまり文脈を欠いた「文の羅列」としての原文が使われるようになりました。

たとえば、マニュアルや資料などの改訂版プロジェクトで、変更が少ない場合に、新規翻訳や編集が必要な部分だけを集めて原文ファイルが作成されているケースです。この場合、翻訳者は前後の関係がよくわからない状態で翻訳しなければなりません。翻訳の適切さを決める重要な要因のひとつが文脈であることを考えると、これは翻訳者にとって非常にづらい状

況です。何が適切な訳かを判断する重要な情報がないまま作業を進めることになるからです。

反対に、同じく改訂版プロジェクトで、膨大な量の完全一致セグメントの中にわずかな新規翻訳セグメントが点在しているケースがあります。この場合、翻訳者は前後の関係を確認することはできません。しかし飛び飛びに存在するわずかな量の翻訳をこなすために時間をかけて周囲の文脈を確認しては時間がかかりすぎてしまいます。

これは、翻訳メモリ普及以前の翻訳作業にはなかった問題です。し、文単位で翻訳作業を行うのは、機械翻訳システムに似ています。機械翻訳システムの性能はどんどん向上していて、近い将来には前後の文脈も踏まえた翻訳ができるようになるかも知れませんが、今のところは文単位でしか作業できません。テキスト全体の意図や前後の流れを踏まえて翻訳できるのが人間の翻訳者の強みであるはずなのに、それが十分に発揮できないやり方での翻訳作業は、どこか「非人間的」なものに思われます。

テクノロジーの活用と人間の翻訳力

翻訳メモリを最大限に活用するには、あまり意識をしないことが望ましいと考えられます。なぜなら、意識した訳文が翻訳メモリにあると、その原文が新しい原文と部分一致している場合でも、過去の訳文のどこを変更すべきなのかが判断しづらいからです。なるべく訳文を再利用しやすくするためには、原文との対応関係がわかりやすい訳文を作る必要があります。しかしそのような訳文と、読んでわかりやすい訳文とは必ずしも一致しません。また、なるべく意識しないということは、翻訳者の創意工夫を抑制してしまうことにもつながります。

形式的にもなるべく原文と訳文を揃える必要があります。文の順

序は基本的に原文と同じでなければならず、文の数も原文と訳文で一致しているほうが再利用には便利です。このような制約により、翻訳の自由度はさらに狭まります。

また、翻訳が表面的になりがちです。翻訳メモリを使う場合の翻訳作業は、まず過去の類似の訳を探るところから始まります。原文を読んで意味をよく理解してから、その意味をもっとも良く表すような訳文を、自分の言語能力を使って組み立てる、という作業ではなく、「メモリのどこかにある正解または正解に近いものを探す」ことが第一目的になってしまうのです。

これらのことが、翻訳作業をどこか「機械的」なものにしてしまっているように感じられることがあります。またこのような翻訳なら、ひょっとしたら近い将来、機械翻訳システムにもできるようになるかもしれません。

翻訳メモリの品質と翻訳者のジレンマ

翻訳メモリの品質という問題もあります。品質の良くなかった過去の翻訳から作られたメモリを使って翻訳作業を行わざるを得ない場合があるのです。そのようなメモリを使う場合でも、表面的な一致率が高ければ、それに基づいて翻訳料金が設定されてしまいます。実際は大幅に訳文を編集しなければならない場合でも、その分の作業に対しては料金が支払われません。

翻訳メモリの品質が十分でない場合、翻訳者はジレンマを感じることがあります。品質の良い翻訳を仕上げたいという気持ちはあっても、原文が完全一致なら、過去の訳文に誤りがあつたり表現の統一がとれていなかったりしたときに修正を加えてもタダ働きになってしまうからです。翻訳者が良心的で自分の仕事にプライドを持っていればいるほど、タダ働きをしまいがちです。しかしそのよう

なことが続けば、いずれは料金分以上の仕事はしないと割り切り、お金にならない修正作業をしなくても無理はありません。仕事に対するプライドも低下するかもしれません。それは翻訳者として悲しいことでもありますし、翻訳者という職業の地位を低下させることにもつながるでしょう。

翻訳メモリの品質は、翻訳者の仕事だけに影響を及ぼす問題ではありません。品質の良くない翻訳メモリを使ったプロジェクトで、品質の良くない翻訳物が納品されれば、今度はクライアントにしわ寄せが来ます。しかしクライアントが満足しなければ最終的にはベンダーの評価が落ちるのはあきらかです。つまり、品質の良くない翻訳メモリを使い続ければ関与者全員がアンハッピーになるのです。それでも翻訳メモリの品質を維持・向上させることについては十分な努力が行なわれているとは言いがたい状況が多く見受けられます。翻訳メモリのメンテナンスには膨大な時間と努力が必要となるためです。しかしテクノロジーを活用することで翻訳の品質が落ちるなら本末転倒です。テクノロジーを使用する目的はコストの削減だけではないはずです。

翻訳教育と翻訳メモリ

わたし自身、20年にわたって翻訳メモリを日常的に使っており、その利点は十分に理解し活用しているつもりです。しかし以上のような点から、翻訳者にとって翻訳メモリは、使いこなせば便利だが、翻訳メモリに「使われる」危険性もある、諸刃の剣だと考えています。そして同じ理由で、翻訳教育の現場に翻訳メモリを取り入れる際にも注意が必要だと考えています。

いまや翻訳者にとって、さまざまな翻訳関連テクノロジーを使いこなすことは必要な能力のひとつであり、実践の場で力を発揮できる翻訳者を育成するにはテクノロジーに関する教育も取り入れる必

要があります。しかし、そのために翻訳という仕事の本質が見失われることがあってはなりません。

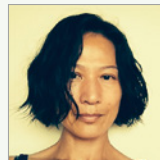
もちろん、翻訳プロジェクトによっては、翻訳メモリを大いに活用して、原語のテキストをなるべく効率よく訳語のテキストに変換することが重要なケースもあります。しかし実際、そのような作業にしばらく従事した後ですべて一から翻訳するプロジェクトに参加すると、しばらく使っていなかった筋肉を使うようなぎこちなさと疲労を感じる場合があります。

これから翻訳を学ぶ人には、翻訳に必要なあらゆる筋肉を使って日頃からトレーニングし、どんな動きも柔軟にできるように準備して欲しいと思っています。また、近い将来機械に取って代わられるような翻訳しかできない翻訳者を育てても仕方ありません。

他のあらゆるテクノロジーと同様、翻訳メモリにもプラス面とマイナス面があるのは当然です。問題のほとんどは、テクノロジーそのものの問題というよりは、使い方の問題なのかもしれません。翻訳メモリがこれだけ普及し、当たり前になった今だからこそ、どのように活用すべきか、どうすればテクノロジーに使われずに済むか、常に意識する必要があると考えます。

Writer Profile

立見 みどり Tatsumi Midori



ソフトウェア開発会社でのインハウス翻訳者およびフリーランス翻訳者を経て、インペリアル・カレッジ・ロンドンにて「翻訳技術を利用した科学・技術・医学翻訳」修士課程修了 (MSc)。ダブリン・シティ大学にて博士課程修了 (PhD)。現在、立教大学 異文化コミュニケーション研究科 特任准教授。研究テーマは、機械翻訳の後編集に携わる翻訳者の作業と品質との相関性、コミュニティ後編集、機械翻訳のための制限言語、翻訳通訳教育のオンライン教材開発など。

WysiWyg

WysiWyg は設立時より、品質をもっと大切に考え、科学的に正確な、そして、お客様の望む翻訳を提供し続けてきました。

WysiWyg はこれから新しい翻訳の形にも挑戦してまいります。

まずは、新しい形の翻訳教室から…
→弊社 HP をご覧ください。

株式会社ウィズウィグ

<http://www.wysiwyg.co.jp/>

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-21-2 京橋第九長岡ビル6階
TEL 03-5566-1669 FAX 03-5566-4808



WORLD BUSINESS PARTNER

人・モノ・ビジネスを、世界と結ぶお手伝い

ida はアウトバウンド&インバウンドのビジネスを、多言語翻訳をベースに貢献しています。

- 「わかりやすい世界標準の英語」をベースに多言語展開の販促ツールから観光用のパンフの仕上げまで一元管理でスムーズに対応します。
- グローバル企業様向けに、多言語 CMS 活用のWEB サイト構築をご提案、運営を行います。
- 翻訳資産を最大活用できる最新の支援ツールを運用。多様な媒体でも用語統一されます。

アイ・ディー・エー株式会社

<http://www.idanet.co.jp/>

〒530-0051 大阪市北区太融寺町1-17
TEL 06-6360-6300 FAX 06-6360-6303



株式会社 インターグループ
インタースクール

『言葉のプロフェッショナル集団』
インターグループは、50年にわたる信頼と実績を持つ異文化コミュニケーションのリーディングカンパニーです。

- フリーランス翻訳者募集
幾多の経験が培った“伝える能力と心”で、質の高い作品を私達と共に作り出して下さる方
- インタースクール 受講生募集
翻訳・通訳なら専門英語力が武器になる。卒業後のお仕事紹介まで。

是非弊社 HP をご覧ください。

株式会社インターグループ

<http://www.intergroup.co.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目2番5号 共同通信会館4F
TEL 03-5549-6907 FAX 03-5549-3207



◆フリーランス翻訳者常時募集中◆

知財コーポレーションは特許翻訳専門の翻訳会社です。特許翻訳は専門性が高い仕事であるため、フリーランス翻訳者の皆様に安心して取り組んでいただけるよう、当社では顧客の仕様に関する説明会や、翻訳チェック結果のフィードバックなどを行っています。より良い翻訳をするためには、翻訳者の皆様・顧客・当社が近い距離でコミュニケーションを取ることが大切と考えており、そうした環境を整えています。知的財産の世界で人材は常に求められています。ご応募をお待ちしています。

株式会社 知財コーポレーション

<http://www.chizai.jp/>

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 土地西新宿ビル7階
TEL 03-5909-1181 FAX 03-5909-1183



技術翻訳に特化したジェスコーポレーションは

ひとりひとりが得意の専門分野を持ち

「原文の正確な理解」を心がけています。

●取り扱い言語●

英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語
インドネシア語、ミャンマー語、モンゴル語
ウルドゥー語、ベンガル語、アラビア語
ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語
その他アジア言語、その他ヨーロッパ言語

株式会社 ジェスコーポレーション

<http://www.jescorp.co.jp/>

〒220-0003 横浜市西区楠町4-7 ニッセイ横浜楠町ビル6F
TEL 045-313-3721 FAX 045-314-3765



サン・フレア アカデミー

サン・フレア アカデミーは、翻訳会社サン・フレアが母体の翻訳スクール。創業約40年、50以上の言語とあらゆる産業分野に対応する翻訳サービスで1000社以上の顧客から高い評価を得ているサン・フレアにおいて高品質の翻訳を提供しているのは登録翻訳者。その約8割がサン・フレア アカデミーから巣立った人材です。サン・フレア アカデミーは翻訳実務での豊富なノウハウと現場のニーズを活かし、次世代の産業翻訳業界を担う優秀な翻訳者の養成に力を注いでいます。

(株)サン・フレア/サン・フレア アカデミー

<http://www.sunflare.com/academy/>

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-7 新宿ヒロセビル2階
TEL 03-6675-3965 FAX 03-6675-3968



ベストな品質を提供するために大切なことは

お客様の要件を翻訳者の皆様に正しく伝え、必要な情報を皆様と迅速・的確に共有することだと考えています。お客様のフィードバックも適時に還元します。US、欧州、中国、韓国をはじめとする当社の海外拠点とも歩調を合わせ、時差を利用し世界のあらゆる言語に対応します。十印を支えるのは皆さまの協力をおいて他にはありません。プラスのしるし、十印は業界のパイオニアです。ご応募をお待ちしています。

株式会社 十印

<http://www.to-in.com/ja/>

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-25-5
TEL 03-5759-4353 FAX 03-5759-4376



HONYAKU
CENTER
New Standards in Translation

翻訳センターグループは、日本最大規模を誇る外国語サービスの総合サプライヤーです。

- 「世界の語学サービス会社ランキング」
4年連続アジア第1位
- 2006年、産業翻訳業界で初の株式上場
(証券コード2483)
- 専門性の高い翻訳を提供
(特許、医薬、工業ローカライズ、金融法務)
- 翻訳以外の外国語サービスも展開
(通訳、派遣、コンベンション、MW、
外国特許出願支援、多言語コールセンター)

株式会社 翻訳センター

<http://www.honyakuctr.com/>

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL 06-6282-5010 FAX 06-6282-5018



翻訳者・校正者・チェッカーを大募集!
スピード翻訳 by GMO の翻訳者に
ご登録いただくと…

- 24時間365日、ウェブから翻訳案件を受注できます
- 空き時間を有効活用できる小規模の案件から、翻訳に数日をする中規模案件まで積極的に受注できます
- 手紙や一般的なビジネス文書から、医療、契約書、論文までさまざまなご依頼案件が受注できます

GMOスピード翻訳株式会社

<https://www.quicktranslate.com/>

〒203-0051 東京都渋谷区桜丘町26-1 セリアンタワー10F
TEL 03-6415-7189 FAX 03-6674-2482

38言語翻訳

Trans-Pro

翻訳プロ (trans-Pro.) は 38 言語対応クラウド型のオンライン翻訳サービスです。お客様評価や指名・お気に入り登録等、お客様の利便性に加え高品質な翻訳提供のため翻訳者皆様のことも考えて設計されています。

●実績数・評価が上がると翻訳料金 UP!

●指名をもらえると更に翻訳料金 UP!

あなたもここで、チャレンジしませんか?

→翻訳プロ登録 <https://www.trans-pro.net/>

(株)ビーコスでは 162 言語 168 ヶ国の登録者と

翻訳・通訳以外にも様々なサービスを提供中!

→その他スタッフ登録 <http://staff.hiwork.jp/>

株式会社ビーコス/翻訳プロ (trans-Pro.)

<http://www.b-cause.co.jp/>

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-3 第二森ビル4階

TEL 03-5733-4264 FAX 03-3433-3320



MEMSOURCE

「最もユーザーフレンドリーな CAT ツール」
「翻訳メモリと用語集の共有、
カスタマイズ可能な自動通知メールのおかげで
我々の時間はかなり短縮されました」
「翻訳の生産性が 50%向上しただけでなく
コストが 20%削減しました。」

Memsource (メムソース) をご愛用頂いている
お客様から、こんなお声を頂戴しています。
業務効率化のためのクラウド型翻訳支援ツール
日本語デモ・資料請求はこちらまで
japan@memsource.com

Memsource

<https://www.memsource.com/ja>

Memsource Technologies, Spalena 51,
110 00 Prague, Czech Republic



株式会社 アスカコーポレーション

— ASCA の「翻訳者育成」の取り組み —
ASCA は医薬/バイオ分野に特化したドキュメントサービスを提供しています。高い専門性を持つ翻訳者の育成に力を注いでいます。

●オンライン講座「ASCA Academy」

登録翻訳者を対象としたセミナーを月 1 回以上の頻度で実施

●ミーティングの実施

大規模案件のキックオフミーティングなどを随時実施。翻訳者同士の情報交換も支援

●フィードバックシステム

品質管理工程の結果を翻訳者と共有

株式会社アスカコーポレーション

<http://www.asca-co.com/>

〒541-0046 大阪府中央区平野町1-8-13 平野町八千代ビル9F
TEL 06-6202-6272 FAX 06-6202-6271

翻訳業界 インデックス

翻訳業界をリードする

企業をご紹介します!

翻訳者をはじめ、

翻訳者を目指している方、

翻訳の依頼をお考えの方など

翻訳会社やスクールを

お探しの方は

このインデックスを

是非ご活用ください。

掲載会社募集中!

募集

広告募集のお知らせ

翻訳者、翻訳会社を対象とする広告や特集記事に関連する広告を随時募集しています。詳しくは

JTF事務局までお問い合わせください。

JTF事務局 : TEL 03-6228-6607

E-mail info@jtf.jp

Next Issue

翻訳の未来を考える

次号
予告

JTF

#286 2016 11/12 JOURNAL

2016年11月11日発行予定

※発行日や内容は変更になる可能性があります。

巻頭特集「ISO/TC37/SC5 コペンハーゲン報告」(仮題)

ISO17100の発行から1年以上がすぎて参加翻訳者の資格要件が関心を集める機会も増えてきましたが、

ISOで策定中の翻訳通訳国際規格は17100だけではありません。

今年6月にコペンハーゲンで開催された年次総会でも新規規格が提案されています。

次号では総会の報告と各規格の最新状況をお伝えします。

Editor's note

おもしろうてやがて苦しき取材かな

今月号の特集でインタビューさせていただいた翻訳通訳業界のリーダーの皆さんはどなたもとても興味深いお話をしてくださり、学ぶところがたくさんありました。

バベルの創業者であり、あの『翻訳の世界』の創刊者でもある湯浅美代子さんのお話をうかがうことができたのは大きな収穫でした。記事では団体の紹介を限られた文字数にまとめる制約があるため「おもしろい話」の大部分はバツサリと割愛せざるを得ませんでした。日本の翻訳業界の歴史を語る上で外すことのできない逸話をいくつかうかがうことができ、個人的にはたいへん満足しています。

日本通訳翻訳学会を表裏の両面にわたり力を尽くしてここまで育ててこられた水野 的さんからうかがったドラマチックなキャリアも忘れることができない内容でしたが、こちらも学会の紹介とは直接関係がないので今回の記事にはできませんでした。湯浅さんや水野さんの物語を遅筆の私が文字にまとめることはきっとできないでしょうが、いつか誰かに記録として残していただきたいものです。

他の四人のリーダーの方のお話からはそれぞれのまっすぐな「こころざし」を感じました。私の乏しい筆力ではその空気やニュアンスをうまく読者の皆さんにお伝えできないことがもどかしい限りです。

原稿さえ書かなくてよければ、この団体リーダーへのインタビュー企画、とてもおもしろいので個人的にはこれからもぜひ続けていきたいです。でも原稿が書けないので、きっと無理でしょう。

編集長 **河野 弘毅**
Kawano Hiroki

JTF JOURNAL

日本翻訳ジャーナル

2016年9月/10月号 #285

発行 ● 2016年9月16日

発行人 ● 東 郁男(会長)

編集人 ● 河野 弘毅

発行所 ● 一般社団法人 日本翻訳連盟

〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-2 宝国ビル7F

TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604

info@jtf.jp http://www.jtf.jp/

企画・編集 ● 広報委員会

表紙撮影 ● 世良 武史

デザイン ● 中村 ヒロユキ(Charlie's HOUSE)

印刷 ● 株式会社 プリントバック



言葉をインフラに、世界の知財をつなぐ 私たちは知財のプロフェッショナルです

業務内容

- ◎ 特許翻訳【英語・中国語・韓国語・欧州アジア各国言語】
- ◎ 知財アカデミー®【教育・情報提供】
- ◎ 知財ヒューマンリソースズ®【人材派遣・人材紹介】
- ◎ 国内／海外出願用図面作成【特許・意匠】
- ◎ 海外出願事務代行サービス、海外特許調査
- ◎ 中国知財裁判情報提供

フリーランス特許翻訳者常時募集中!

※応募方法など詳細は www.chizai.jp へアクセスください。

海外拠点

＊ 中国現地法人

知財信息咨询(上海)有限公司
www.chizai.com.cn

＊ 共同出資会社

雅訳諮詢(大連)有限公司
www.asia-translate.com

株式会社 知財コーポレーション (創立1976年)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル7階

TEL: (03)5909-1181(代) FAX: (03)5909-1183

www.chizai.jp E-mail: info@chizai.jp ISO9001:2008認証取得

2016年12月、
創立40周年を迎えます



「英語が好き」を仕事にしたい。わたしの夢を、ここでかなえる。

通学科／通信科講座、
ワンデーセミナーなど
多彩なプログラムをご用意。
「翻訳実務検定TQE」を運営し、
翻訳者の育成に力を入れています。

「第26回 JTF翻訳祭」のご案内

考えよう、翻訳のこと

～ともに歩む翻訳の未来へ～

JTF 翻訳祭は今年で第26回を迎えます。今年からJTFの定款に「通訳」の2文字が刻まれ、翻訳・通訳を含めた業界団体として更なる拡大に期待が集まっています。同時に2020年の東京オリンピックの開催や訪日外国人増加による翻訳・通訳需要の拡大など、業界を取り巻く環境が次第に変化していく中、業界関係者の連携をより一層深めることが必要とされています。

JTF 誕生から四半世紀が経過した今だからこそ、「翻訳のこと」を再考し、ともに歩みながら輝かしい翻訳の未来を引き寄せることが重要だと感じ、「考えよう、翻訳のこと～ともに歩む翻訳の未来へ～」を今年のテーマに掲げました。

さて、「翻訳の原点」とはどこにあるのでしょうか？人それぞれ考え方は異なりますが、私は「翻訳者」にいます。翻訳会社、翻訳支援ツールメーカー、ソースクライアントのいずれでも、また統計的機械翻訳の学習プロセスでも、「翻訳者」の存在があつてこそビジネスが成り立ち、技術は革新します。このような考えから、今年の企画実行委員は私を除いて全員「翻訳者」で構成されています。「翻訳者」の視点で業界関係者のバランスを配慮しながら、今までにない新しい翻訳祭を目指し、良質なコンテンツを集めるための議論を重ねております。

用意したのは24の講演&パネルディスカッション。翻訳プラザでは、製品のプレゼンコーナーに加え、海外を含む約40社が展示ブースで自社の製品を紹介します。見たことのないツールや新機能を発見できるかもしれません。

そして交流パーティー。300名を超える業界関係者が集い、情報交換やビジネスマッチングの機会として活用されています。翻訳祭企画実行委員会全員がこだわって準備しているJTF 翻訳祭。今年の翻訳祭は何かが違うと感じていただけたら幸いです。

JTF 理事、第26回JTF 翻訳祭企画実行委員長

古谷 祐一



第26回 JTF翻訳祭

全体テーマ：「考えよう、翻訳のこと～ともに歩む翻訳の未来へ～」

日 時：2016年11月29日(火) 9:30～20:30(開場・展示会開始 9:00)

場 所：「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」

来場者数：900名(見込み) ※前年度890名

申込締切：2016年11月22日(火)まで

運 営：第26回JTF 翻訳祭企画実行委員会

詳細は Web へ http://www.jtf.jp/festival/festival_top.html